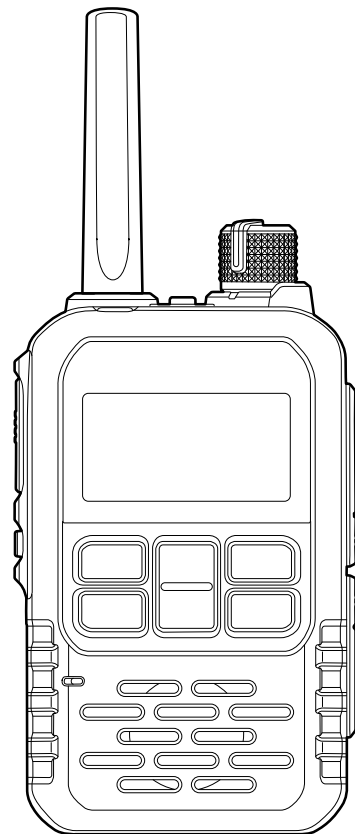


取扱説明書

携帯型IP無線機 **SK-6000**

この取扱説明書は、別売品のことも記載していますので、お読みになったあとも大切に保管してください。



はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

本製品は、4G LTE通信ネットワーク網を経由した日本全国が通信エリアの携帯型IP無線機です。

ご使用の際は、この取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

付属品

- ◎アンテナ
- ◎ハンドストラップ
- ◎ご使用になる前に
- ◎ご利用ガイド
- ◎保証書

使用後はリサイクルへ



この製品には、リチウムイオン電池が使用されています。

電池はリサイクル可能な資源です。

又、圧力や強い衝撃により発火する危険性があります。

廃棄の際は、リチウムイオン電池は、製品より取り外し端子部分をセロテープ等で絶縁した上で、自治体の指示に従って適切に処分してください。

詳しくはお住まいの自治体の回収方法をご確認ください。

登録商標/著作権

Bluetoothのワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc.が所有権を有します。トム通信工業株式会社は使用許諾の下でこれらのマークおよびロゴを使用しています。

その他、本書に記載されている会社名、製品名およびサービス名は、各社の商標または登録商標です。

なお、本文中ではTM、®などのマークを省略しています。本書の内容の一部または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。

本製品の特長

- ◎4G LTE通信ネットワークとクラウドサーバーを利用することで、日本全国が通信エリアの安定した通信ができます。
- ◎局番号帳メモリー機能により、接続先を簡単に表示できます。
- ◎漢字名称を選択して、各通話モード(P.7)の切り替えや相手局の呼び出しができます。
- ◎通話メモ機能により、相手局の通話内容を録音/再生できます。
- ◎あらかじめ携帯機に登録されている状態を選択し、確定することで、自局の状態を動態管理システムで確認できます。
- ◎一斉・同報通信時の遅延、バラつきを極小化することにより、レスポンスのよい高品質通信を実現しました。
- ◎GPSアンテナが内蔵されていますので、動態管理システムを導入すると位置情報の管理ができます。
- ◎デュアルSIMに対応しています。
- ◎USB充電中は、電源を切らずにバッテリーを交換できます。
- ◎プレストーク付きBluetoothヘッドセットに対応しています。
- ◎IP67★の防塵/防水性能があります。
- ◎本製品の無線LANは今後のアップデートによって使用できるようになります。

★「IP表記」(P.3)をご覧ください。

防塵/防水性能

バッテリーパックとアンテナを正しく取り付け、各端子の保護カバーを確実に閉じた状態で、IP67の防塵/防水性能があります。

次のような使いかたをすると、防塵/防水性能を維持できませんので、ご注意ください。

- 水深1mより深く、または30分より長く水中に放置したとき
- 雨の中や、水滴が付着、またはぬれた手でバッテリーパックや防水形スピーカーマイクロホンをつけたり、はずしたりしたとき
- 海水や砂、泥、洗浄液(洗剤)等が無線機に付着したまま放置したとき
- 落下等外的衝撃により、樹脂変形、ひずみ、ひび割れ等が発生した場合や薬品の付着により筐体、ゴムパッキンに劣化が生じたとき
- 長時間、高い水圧をかけたとき
- 蛇口からの水や湯を直接当てたとき
- 「別売品の使用による防塵/防水性能」に記載する別売品以外を使用したとき
- 無線機本体とバッテリーパック端子間の腐食による故障、または損傷した状態で使用したとき
- 10℃～+60℃以外の環境で使用したとき
- 薬品等の蒸気が発散しているところや薬品に触れるところに放置したとき
- 本製品を分解または改造したとき
- 無線機本体とバッテリーパック、別売品を接続するコネクタ間に微細なゴミ(糸くず、毛髪、砂など)が挟まっているとき

別売品の使用による防塵/防水性能

バッテリーパック(SK-P62/SK-P63)、防水形小型スピーカーマイクロホン(SK-M04)を無線機本体に装着することで、IP67の防塵/防水性能になります。

※上記以外の別売品を使用したときは、別売品を含めた防塵/防水性能の低いものに制限されます。

※別売品(P.57)は、防塵/防水性能をご確認のうえ、ご使用ください。

IP表記

製品の防塵/防水性能を表すための表記です。

IPにつづけて保護等級を示す数字で記載され、1つ目の数字が防塵等級、2つ目が防水等級を意味します。

また、保護等級を定めない場合は、その等級の表記に該当する数字の部分を「X」で表記します。

【本書で記載する保護の程度】

IP6X(耐塵形) : 試験用粉塵を1m³あたり2kgの割合で浮遊させた中に8時間放置したのちに取り出して、無線機内部に粉塵の侵入がないこと

IPX7(防浸形) : 水深1mの静水(常温の水道水)に静かに沈め、30分間放置したのちに取り出して、無線機として動作すること

海水が付着したときは？

海水が無線機に付着したときは、すぐに洗い流し、水分をふき取って十分に乾燥させてからご使用ください。

海水が付着したまま放置したり、使用したりすると、故障の原因になります。

※バッテリーパック、アンテナ、保護カバーを無線機に正しく取り付けた状態で洗浄してください。

※常温の真水でやさしく洗い流してください。

※ブラシなどを使用せず、手で洗い流してください。

ご注意

次の場合は、防水性能を維持できませんので、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふき、十分に乾燥させてからご使用ください。

- ・無線機本体、保護カバーが破損している場合
- ・落下などの強い衝撃を無線機に与えた場合

電波法/電気通信事業法についてのご注意

- ◎本製品は、電波法/電気通信事業法に基づいて、設計認証を受けた製品です。その証として、[機能]を押しながら、電源/音量ツマミを時計方向に回して電源を入れる则表示される認証画面で、技適マークや認証番号が表示されます。分解や改造をしないでください。
- ◎本製品は、アンテナを含めて技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた製品です。そのため、ご使用いただけるアンテナは、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けたものに限定されます。アンテナを加工して使用したり、弊社指定以外のアンテナを使用したりすると、電波法違反で罰せられる場合がありますので、ご注意ください。
- ◎本製品をご使用になる場合、人体より5mm以上離して使用してください。

無線LANについてのご注意

- ◎5.2GHz帯無線LANの使用は、電波法により、5.2GHz帯高出力データ通信システムの基地局、または陸上移動中継局と通信する場合を除き、屋内に限定されます。
- ◎5.3GHz帯無線LANの使用は、電波法により、屋内に限定されます。
- ◎心臓ペースメーカーを使用している人の近くで、本製品を使用しないでください。心臓ペースメーカーに電磁妨害を与え、生命に危険をおよぼすおそれがあります。
- ◎医療機器の近くで本製品を使用しないでください。医療機器に電磁妨害を与え、生命に危険をおよぼすおそれがあります。
- ◎電子レンジの近くで本製品を使用しないでください。電子レンジを使用すると電磁波の影響により、本製品の無線通信が妨害されるおそれがあります。

2.4GHz現品表示記号の意味

2.4GHz帯の無線LAN

- 「2.4」：2.4GHz帯を使用する無線設備
- 「DS/OF」：DS-SS方式/OFDM方式
- 「4」：想定干渉距離が40m以下
- 「---」：全帯域を使用し、かつ移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局の帯域を回避不可

2.4DS/OF4

Bluetooth

- 「2.4」：2.4GHz帯を使用する無線設備
- 「FH」：FHSS方式
- 「1」：想定干渉距離が10m以下
- 「---」：全帯域を使用し、かつ移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局の帯域を回避不可

2.4FH1

2.4GHz帯の電波干渉についてのご注意

- 2.4GHz帯の無線LAN、またはBluetoothで通信するときは、次のことがらに注意してください。
- この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を必要とする無線局)および特定小電力無線局(免許を必要としない無線局)並びにアマチュア無線局(免許を必要とする無線局)が運用されています。
- ◎この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことをご確認ください。
- ◎万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、使用場所を変更するか、無線LANやBluetoothのご使用をお控えください。
- ◎その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、弊社カスタマーサポート部(P.73)へお問い合わせください。

5GHzの無線通信チャンネル

右記の表示がある製品は、IEEE802.11a(W52/W53/W56)規格で採用された無線通話チャンネルに対応しています。

IEEE802.11b/g/n			
IEEE802.11a/n/ac			
JIS	W52	W53	W56

本製品が接続する無線アクセスポイントについても、この表示がある製品でご使用いただくことをおすすめします。

ご注意

5GHz帯(W53/W56)を使用する場合、無線アクセスポイント側でANY接続拒否などSSIDステルス(隠蔽)機能が設定されていると、本製品は接続できません。

医用電気機器近くでの取り扱い

植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器や医用電気機器の近くで本製品を使用する場合は、電波によりそれらの装置・機器に影響を与えるおそれがありますので、次のことをお守りください。

◎植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器を装着されている方は、本製品を植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器の装着部位から15cm以上離して携行、および使用してください。電波により機器の作動に影響を与える場合があります。

◎身動きが自由に取れない状況など、15cm以上の離隔距離が確保できないおそれがある場合、付近に植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器を装着している方がいる可能性がありますので、本製品を使用しないでください。電波により機器の作動に影響を与える場合があります。

◎医療機関の屋内では次のことに注意してご使用ください。

- 手術室、集中治療室(ICU)、冠状動脈疾患監視病室(CCU)には本製品を持ち込まないでください。
- 病棟内では、本製品を使用しないでください。
- ロビーなどであっても付近に医用電気機器がある場合は本製品を使用しないでください。
- 医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示にしたがってください。

◎医療機関の外で、植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器以外の医用電気機器を使用される場合(自宅療養など)は、電波による影響について個別に医療用電気機器メーカーなどにご確認ください。電波により機器の作動に影響を与える場合があります。

本製品の比吸収率(SAR)

本製品は、国が定めた電波の人体吸収に関する技術基準に適合しています。この技術基準は、携帯型端末などの無線機器から送出される電波が人間の健康に影響を及ぼさないよう、科学的根拠に基づいて定められたものであり、人体に吸収される電波の平均エネルギー量を表す比吸収率(SAR: Specific Absorption Rate)について、これが2W/kg★の許容値を超えないこととしています。この許容値は、使用者の年齢や身体の大きさに関係なく十分な安全率を含んでおり、世界保健機関(WHO)と協力関係にある国際非電離放射線防護委員会(ICNIRP)が示した国際的なガイドラインと同じ値になっています。

本製品の値は0.750W/kg(10g)です。この値は、国が定めた方法に従い、携帯型端末の送信電力を最大にして測定された最大の値です。個々の製品によってSARに多少の差異が生じることもありますが、いずれも許容値を満足しています。また、本製品は、基地局との通信に必要な最低限の送信電力になるよう設計されているため、実際に通話している状態では、通常SARはより小さい値となります。SARについて、さらに詳しい情報をお知りになりたい方は、下記のホームページをご参照ください。

総務省のホームページ

<https://www.tele.soumu.go.jp/j/ele/index.htm>

社団法人電波産業会のホームページ

<https://www.arib-emf.org/index.html>

★技術基準については、電波法関連省令(無線設備規則第14条の2)で規定されています。

取り扱い上のご注意

- ◎本製品を極端に寒い場所から持ち運んだ場合は、結露することがあります。結露した場合は、自然乾燥させるか、長いあいだ同じ環境に置くなどして、結露がなくなってからご使用ください。
- ◎磁気カードを無線機に近づけないでください。磁気カードの内容が消去されることがあります。

◎通信事業者のサービスエリア内でも電波の届かない場所(トンネル・地下など)では通信できません。また、電波状態の悪い場所では通信できないこともあります。なお、通信中に電波状態の悪い場所へ移動すると、通信が途切れることがありますので、あらかじめご了承ください。

◎本製品の故障、誤動作、不具合、停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

◎本製品は、高度な信頼性が必要な用途に使用されることを目的とした製品ではありません。電池の消耗、周囲の状況(ネットワークの状態、天候、山や建物などの障害物)など、周囲の環境によって、通信できないことがあります。緊急呼び出し関連の機能についても、補助的な使用を目的とした機能としてご理解ください。

運転時のご注意

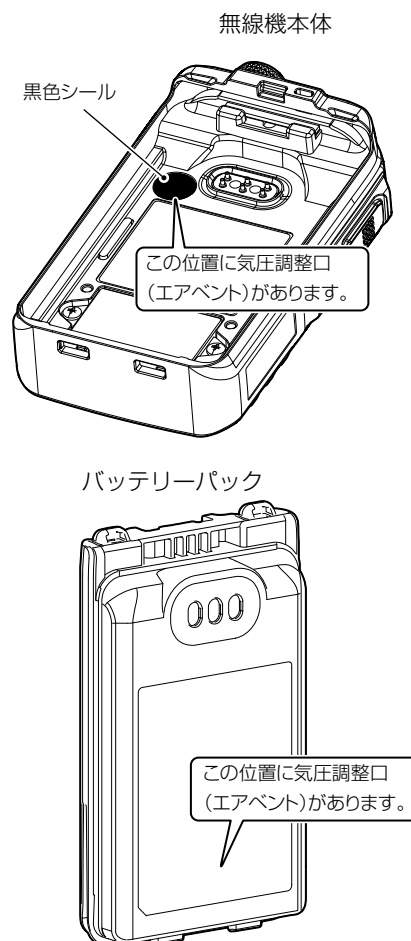
- ◎安全運転のため、運転中に本製品を操作したり、本製品の表示部を注視(表示部を見つづける行為)したりしないでください。
- ◎本製品を操作、または表示部を注視する場合は、必ず安全な場所に停車させてください。
- ◎安全運転に必要な外部の音が聞こえない状態で運転しないでください。
一部の都道府県では、走行中にイヤホンやヘッドホンなどを使用することが規制されています。
- ◎安全運転のため、無線機を身体に付けた状態で運転しないでください。

気圧調整口(エアイベント)

下図の位置に気圧調整口(エアイベント)があり、この下にある空気を通す素材のシートによって、気圧を調整しています。
※ほかのシールを貼るなどしてふさぐと、気圧調整ができなくなり、運用してしばらくすると、内蔵スピーカーからの音量が小さくなる現象が発生することがあります。

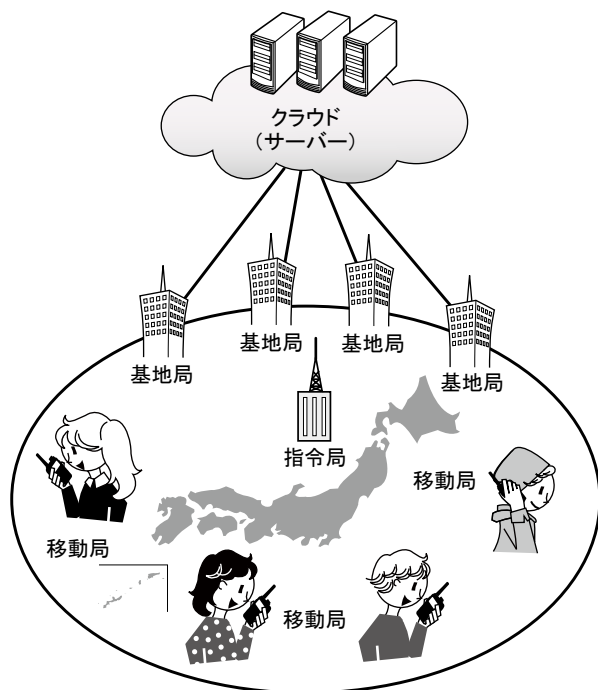
また、防水性能が維持できなくなる場合があります。

※黒色シールに傷がつくと、防水性能が維持できなくなる場合があります。



IP無線システムについて

IP無線システムは、携帯電話通信網を利用して広域かつ高品質の音声通話データ転送を実現するシステムです。



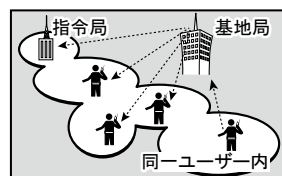
通話モード

(1) 全グループ斉通話

同一ユーザー内で、通話中の無線機を強制的に終話させて、すべての無線機と通話ができます。

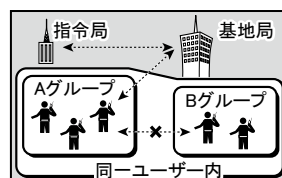
(2) 全グループ通話

同一ユーザー内で、通話中以外のすべての無線機と通話ができます。



(3) グループ通話

同一ユーザー内で、無線機を複数のグループ(例：A、B)に分けているとき、特定のグループの無線機とだけ通話ができます。

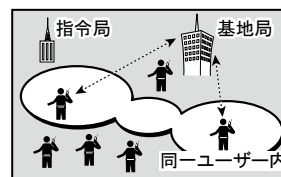


(4) 個別通話

同一ユーザー内で、無線機ごとに割り当てられたユーザー名(番号)の特定の無線機とだけ通話ができます。

(5) 個別優先通話

同一ユーザー内で、通話中の無線機を強制的に終話させて、その無線機と優先して通話ができます。



(6) 隣接通信通話

同一ユーザー内で、GPS位置情報、またはあらかじめ無線機に設定されている位置情報を元に、指定位置から指定範囲内にある無線機と通話ができます。



もくじ

はじめに	2	発信履歴から発信する	32
安全上のご注意	10	着信履歴から発信する	33
■ 共通	10	セレコール	34
■ 無線機本体	11	メールを送信する	35
■ 充電機器	12	受信メール履歴	36
■ バッテリーパック	12	送信メール履歴	37
■ 乾電池ケース	13	伝言メモを送信する	38
ご使用前の準備	14	伝言メモを再生する	39
■ nanoSIMカードの取り付けかた	14	通話メモ録音の設定と解除(待ち受け中)	40
■ アンテナ/ハンドストラップの取り付け	16	■ 通話メモ録音を設定する(待ち受け中)	40
■ ベルトクリップの取り付けかた	16	■ 通話メモ録音を解除する(待ち受け中)	40
■ バッテリーパックの取り付けと取りはずし	16	通話メモの録音と停止(通話中)	41
■ 充電のしかた(SK-P65使用時)	17	■ 通話メモを録音する(通話中)	41
■ 充電のしかた(USB用ACアダプター/ 充電用USBケーブル使用時)	18	■ 通話メモ録音を停止する(通話中)	41
■ 充電時間と運用時間の目安	19	通話メモを再生する	42
■ バッテリーパックの特性と寿命について	20	緊急通報	43
■ バッテリーパックの膨らみについて	20	ユーザーを切り替える	44
■ 電源の入れかた	21	自局情報を確認する	45
■ 音量調整のしかた	21	コントラストを調整する	46
■ 通話の前に確認すること	21	ワンタッチ発信相手局を切り替える	47
■ 電池の残量表示について	22	状態を設定する	48
■ 電池の残量警告音について	22	■ 状態の設定を解除するには	48
■ キーロック機能について	22	バイブレーションをONにする	49
各部の名称とはたらき	23	■ バイブレーションをOFFにするには	49
■ 前面部/側面部	23	Bluetoothを設定する	50
■ 表示部	24	警告機能について	51
通話する(ワンタッチ発信)	26		
通話する(局番号帳発信)	27		
通話する(番号入力発信)	29		
■ 状態表示ランプが赤色に点灯したら	30		
通話する(着信)	31		
■ 全グループ通話モード着信時	31		
■ 通話中の全グループ斉受信について	31		
■ 通話中の個別優先受信について	31		
■ 通話の終了について	31		

もくじ

緊急速報メール.....	52
■ 緊急速報メールを受信したとき	52
緊急速報メールの受信履歴.....	53
緊急速報メールの受信設定.....	54
緊急速報メールの注意事項.....	55
■ 緊急速報メール受信時の音量について	55
■ 緊急速報メールの受信について	55
その他の機能について.....	56
■ GPS位置情報.....	56
■ 無通信時間制限	56
■ 緊急モニター	56
別売品とその使いかた.....	57
■ 別売品についてのご注意.....	57
■ 別売品について	57
■ 乾電池ケース(SK-P64)について.....	58
■ 急速充電器(連結タイプ)(SK-P66)	
で充電するには	59
■ スピーカーマイク(SK-M01)/	
ネクタイピンマイク(SK-M02)/	
防水スピーカーマイク(SK-M04)の接続について	61
■ ネクタイピンマイク(SK-M02)の使いかた	62
■ Bluetoothマイク(SK-M03)の使いかた	63
■ キャリングケース(SK-T62)について	64
■ キャリングケース(SK-T63)について	65
ケタ数/件数一覧	66
ソフトウェアエアダウンロードについて	67
メッセージ一覧	68
保守.....	69
■ 日常の保守	69
■ 定期保守.....	69
故障と思われる前に.....	70
用語・機能説明一覧	71
仕様.....	72
■ SK-6000	72
保証とアフターサービス.....	73
■ 保証書(別添付)	73
■ 保証期間中の修理	73
■ 保証期間後の修理	73
■ 弊社製品のお問い合わせ先について	73

安全上のご注意

安全にお使いいただくために、ご使用前に、必ずお読みください。

- ◎使用者、および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい注意事項を示しています。
- ◎右記の「△危険」、「△警告」、「△注意」の内容をよく理解してから本文をお読みください。
- ◎お読みになったあとは、いつでも読める場所に保管してください。

免責事項について

地震・雷・風水害などの天災および当社の責任以外の火災、本製品の違法な使用、お客様または第三者が本書とは異なる使用方法で本製品を使用することにより生じた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。人命救助などを目的とした通信に本製品を使用し、通信の途絶、故障や誤作動、電池の消耗などにより、人命に関わる事態が生じてても、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

△危険	これを見逃して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。
△警告	これを見逃して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。
△注意	これを見逃して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

■ 共通

△危険

- ◎引火性ガスの発生する場所では絶対に使用しないでください。
引火、火災、爆発の原因になります。
- ◎次の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱、液もれ、感電、けが、故障の原因になります。
 - 指定以外のACアダプターを接続しないでください。
 - 指定以外のバッテリーパックを充電しないでください。
 - 指定以外の充電器を使用しないでください。

△警告

- ◎分解、改造しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常がある場合は、使用しないでください。
そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。
すぐに電源を切り、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社カスタマーサポート部にお問い合わせください。
- ◎赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。
感電、けがの原因になります。
- ◎電子レンジや高圧釜などに入れたり、電磁調理器の上に置いたりしないでください。
破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。
- ◎次の事項を守らないと、火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。
 - ケーブルの上に乗ったり、重いものを載せたりしないでください。
 - ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。

安全上のご注意

■ 共通

△ 注意

- ◎直射日光の当たる場所や空調機器の吹き出し口など、温度変化の激しい場所には設置しないでください。
変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。
- ◎清掃するときは、洗剤や有機溶剤(シンナー、ベンジン、アルコールなど)を絶対に使用しないでください。
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。
- ◎ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、火災、けが、故障の原因になることがあります。
- ◎-10℃~+60℃以外の環境では使用しないでください。
記載の温度範囲以外でのご使用は、故障の原因になることがあります。

■ 無線機本体

△ 警告

- ◎アンテナを持って本製品を振り回したり、投げたりしないでください。
本人や他人に当たって、けがや故障、および破損の原因になります。
- ◎アンテナを接続しないで送信したり、送信しながらアンテナを接続したりしないでください。
感電、故障の原因になります。
- ◎大きな音量でヘッドホンやイヤホンなどを使用しないでください。
大きな音を連続して聞くと、耳に障害を与える原因になります。
- ◎航空機内や病院など、使用を禁止されている区域では電源を切ってください。
電子機器や医用電気機器に悪影響を与える原因になります。運用が必要な場合は、使用する区域の管理者から許可が得られるまで電源を入れないでください。
- ◎自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで使用しないでください。
本製品からの電波が自動制御機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。

△ 注意

- ◎アンテナを折り曲げたり、ねじったりしないでください。
変形や破損の原因になることがあります。
- ◎針金などの細い棒でマイクやスピーカーの穴に触れないでください。
故障の原因になることがあります。
- ◎付属品、および指定の別売品以外は使用しないでください。
故障の原因になることがあります。
- ◎テレビやラジオの近くで送信しないでください。
電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。

安全上のご注意

■ 充電機器

⚠ 警告

◎次の事項を守らないと、火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。

- 充電機器に水を入れたり、ぬらしたりしないでください。また、水にぬれたときは、使用しないでください。
- ぬれた手で電源プラグや機器に絶対に触れないでください。

- 充電機器の充電端子接点部に金属類を差し込まないでください。
- 電源ケーブルや接続ケーブルに傷がある、またはACコンセントの差し込みがゆるいときは、使用しないでください。

⚠ 注意

◎次の事項を守らないと、火災、液もれ、発熱、感電、故障の原因になることがあります。

- 5℃～40℃以外の環境で充電しないでください。
- 湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所に置かないでください。

- 電源ケーブルを抜き差しするときは、電源ケーブルを引っ張らないでください。
- 充電後や充電しないときは、ACアダプターを抜いてください。

■ バッテリーパック

⚠ 危険

◎次の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱や発煙、液もれ、感電、やけどの原因になります。

- バッテリーパックの端子にハンダ付けをしないでください。
- バッテリーパックの端子間を針金などの金属類で接続しないでください。
- 金属類(針金、ネックレス、鍵など)や導電性のあるものをバッテリーパックの上に放置したり、バッテリーパックといっしょに持ち運んだりしないでください。
- バッテリーパックは、単体で水や海水につけたり、ぬらしたりしないでください。
- バッテリーパックからもれ出した液が目に入ったときは、こすらないでください。失明のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流したあと、ただちに医師の治療を受けてください。

◎火やストーブのそば、車内や炎天下など、高温になる場所での使用、充電、放置はしないでください。

バッテリーパックの性能や寿命が低下、保護装置が動作して充電できなくなったり、保護装置が破損したりして、破裂、発煙、発火や火災、液もれ、やけどの原因になります。

◎火の中に投入したり、加熱したりしないでください。

バッテリーパック内部のガスに引火して、破裂や火災などの原因になります。

◎バッテリーパックを落下させたり、投げ付けたりして、強い衝撃を与えないでください。

外観上、ひび割れや破損がない場合でも、内部で破損している場合があり、その状態で使用をつづけると、破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。

⚠ 警告

◎使用中や充電中に、いつもより発熱するなど異常と感じたときは、使用を中止してください。

使用をつづけると、バッテリーパックの破裂、発熱、液もれ、故障の原因になります。

◎指定の充電時間以上、充電しないでください。

指定の充電時間を経過しても充電を完了しないときは、ただちに充電を中止してください。破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。

◎満充電後、すぐに再充電を繰り返さないでください。

過充電になり、バッテリーパックの破裂、発熱、液もれの原因になります。

◎バッテリーパックからもれ出した液が皮膚や衣服に付着したときは、放置しないでください。

皮膚に障害を与えるおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。

◎テープを巻きつけたり、加工したりしないでください。

バッテリーパック内部からガスが発生することがあり、破裂、発熱、液もれの原因になります。

◎バッテリーパックは、ぬれた状態で無線機や充電器に装着しないでください。

無線機や充電器の電源端子接点部に水や海水が付着して、故障の原因になります。

安全上のご注意

■ バッテリーパック

△ 注意

◎ 次の事項を守らないと、破裂、発熱、液もれ、サビ、性能や寿命の低下の原因になることがあります。

- バッテリーパックを満充電にした状態、または完全に使い切った状態で長期間放置しないでください。

長期間バッテリーパックを保管する場合は、満充電のあと、 (残量あり) の状態を表示するまで使用して、無線機から取りはずし、下記の温度範囲で湿気の少ない場所に保管してください。

約1ヵ月： -20℃～+50℃

約3ヵ月： -20℃～+40℃

約1年： -20℃～+20℃

- 寒い戸外や冷えたままで充電しないでください。
- 無線機を使用しないときは、必ず電源を切ってください。

■ 乾電池ケース

△ 危険

◎ 次の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱や発煙、液もれ、感電、やけどの原因になります。

- 乾電池ケースは、アルカリ乾電池専用です。アルカリ乾電池以外の電池を入れないでください。
- 充電しないでください。
- ハンダ付けをしないでください。
- 乾電池ケースの電池端子間をショートさせないでください。
- 金属類(針金、ネックレス、鍵など)や導電性のあるものを乾電池ケースの上に放置したり、バッテリーパックといっしょに持ち運んだりしないでください。
- 火やストーブのそば、炎天下など、高温になる場所での使用、または放置をしないでください。

- 長時間使用しない場合は、液もれのおそれがありますので、アルカリ乾電池を取りはずしてください。
また、電池のアルカリ液が目に入ったり、皮膚や衣服に付着したりしたときは、こすったり、触れたりしないでください。
失明、皮膚障害のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流したあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- 被覆が傷ついたり、はがれたりしたアルカリ乾電池を使用しないでください。

△ 警告

◎ 次の事項を守らないと、破裂、発熱、液もれ、けがの原因になります。

- テープを巻きつけたり、加工したりしないでください。アルカリ乾電池から、ガスが発生することがあります。
- 水や海水につけたり、ぬらしたりしないでください。
- 分解や改造をしないでください。

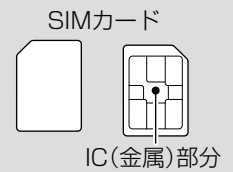
- 電池を交換するときは、すべての電池を同時に交換してください。
また、種類の異なる電池を混ぜたり、新しい電池と古い電池を混ぜたりして使用しないでください。

ご使用前の準備

■ nanoSIMカードの取り付けかた

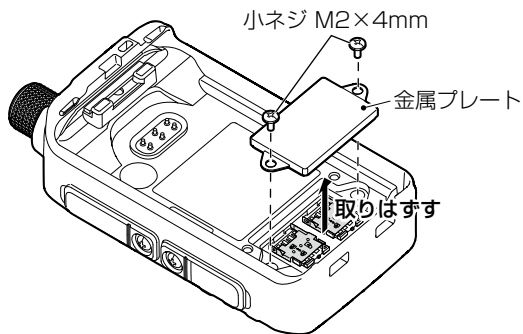
取り扱い上のご注意

- ◎ 静電気による故障防止のため、作業をはじめる前に身近な金属(ドアノブやアルミサッシなど)に手を触れて、身体の静電気を取り除くようにしてください。
 - ◎ SIMカードのIC(金属)部分、および本製品のSIMカード接続端子に、直接指で触れないでください。
 - ◎ 切り欠きの位置を確認してから、正しい向きで装着してください。
 - ◎ 無理な取り付け、取りはずしはしないでください。
 - ◎ SIMカードの装着時、または交換時は、スロットカバーを押さえずに十分に注意してください。スロットカバーやスロット内部が変形すると、SIMカードが装着できなくなります。
 - ◎ 指定されたSIMカード以外は、使用しないでください。
- ※ 1枚だけ装着するときには、MAIN側のスロットに取り付けてください。

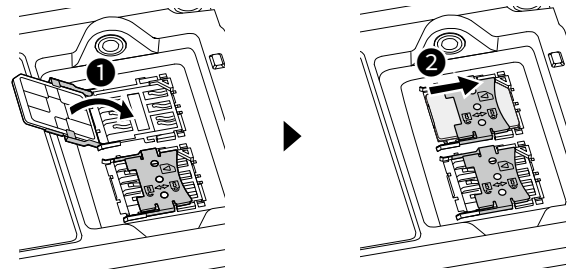


◇ シングルSIMカード(docomo)の取り付けかた

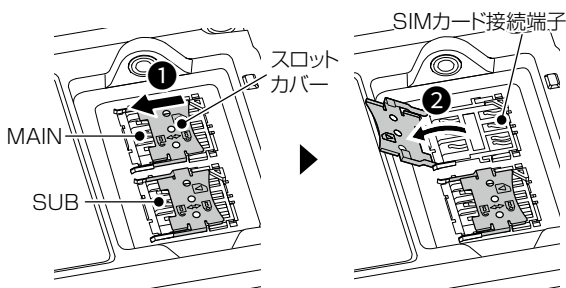
1. 小ネジで固定されている金属プレートを取りはずします。



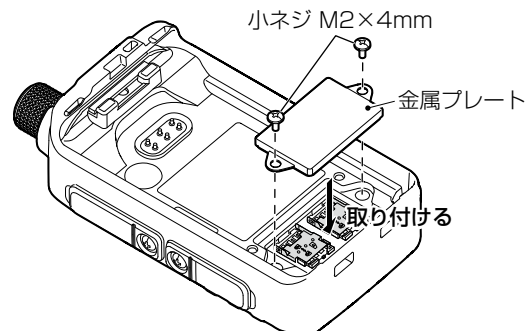
4. スロットカバーを閉じ(①)、スロットカバーを押さえながら矢印の方向に押してロックします(②)。



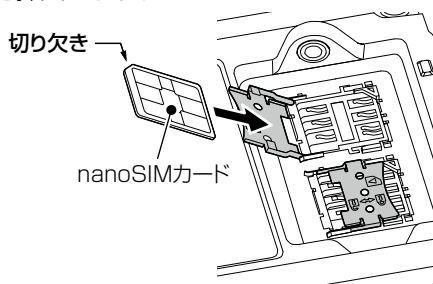
2. MAIN側のスロットにSIMカードを取り付けます。
スロットカバーを押さえながら矢印の方向に押して(①)、スロットカバーを開けます(②)。
※スロットカバーを押さえずに十分に注意してください。
※SIMカード接続端子に、直接指で触れないように注意してください。



5. 手順1で取りはずした金属プレートを取り付け、小ネジでしっかり締めて固定します。



3. 切り欠きの位置を確認してから、図のようにSIMカードを挿入します。

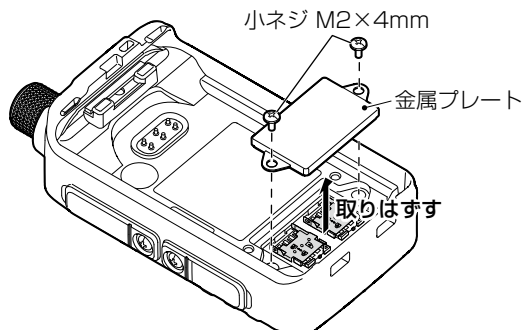


ご使用前の準備

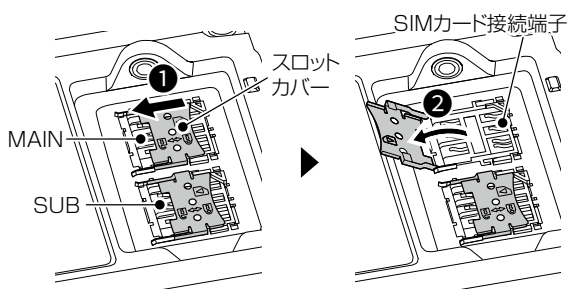
■ nanoSIMカードの取り付けかた

◇デュアルSIMカード(docomo/au)の取り付けかた

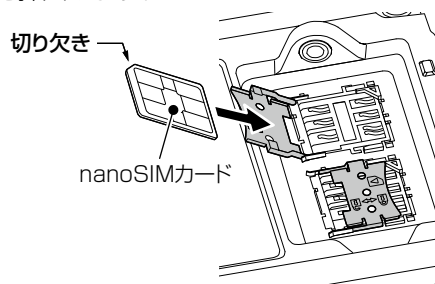
1. 小ネジで固定されている金属プレートを取りはずします。



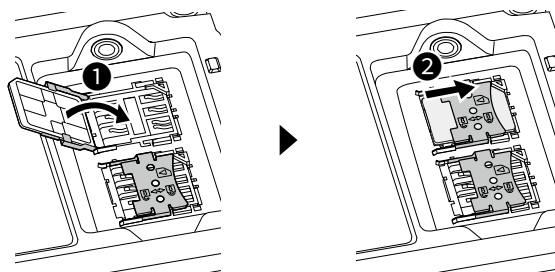
2. MAIN側のスロットにSIMカードを取り付けます。
スロットカバーを押さえながら矢印の方向に押して
(①)、スロットカバーを開けます(②)。
※スロットカバーを押さえすぎないように注意してください。
※SIMカード接続端子に、直接指で触れないように注意してください。



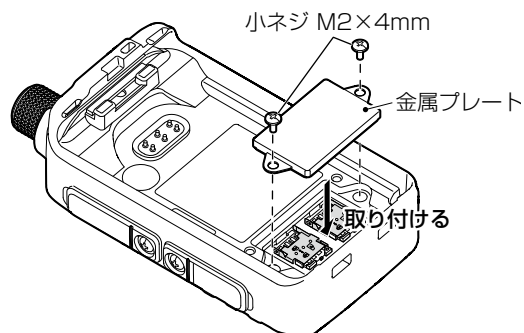
3. 切り欠きの位置を確認してから、図のようにSIMカードを挿入します。



4. スロットカバーを閉じ(①)、スロットカバーを押さえながら矢印の方向に押してロックします(②)。



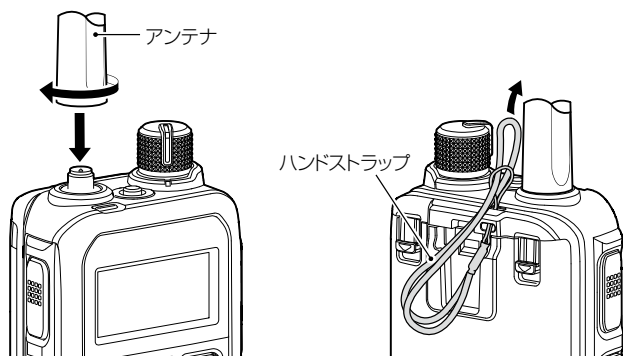
5. 2枚目を装着するときは、MAIN側のスロットと同様に、SIMカードをSUB側のスロットに取り付けます。(手順2～4)
6. 手順1で取りはずした金属プレートを取り付け、小ネジでしっかり締めて固定します。



※ドコモMVNO回線をご利用の場合は、シングルSIMとなります。必ずMAIN側のスロットにSIMカードを取り付けてください。

ご使用前の準備

■ アンテナ/ハンドストラップの取り付け

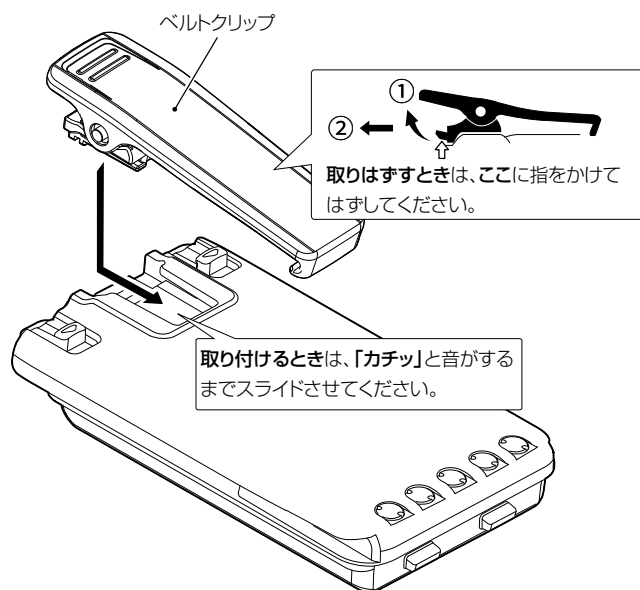


ご注意

技術基準適合証明(工事設計認証)を受けていますので、付属のアンテナ以外は使用できません。

■ ベルトクリップの取り付けかた

バッテリーパック、または乾電池ケースを無線機本体から取りはずした状態で、ベルトクリップを着脱してください。



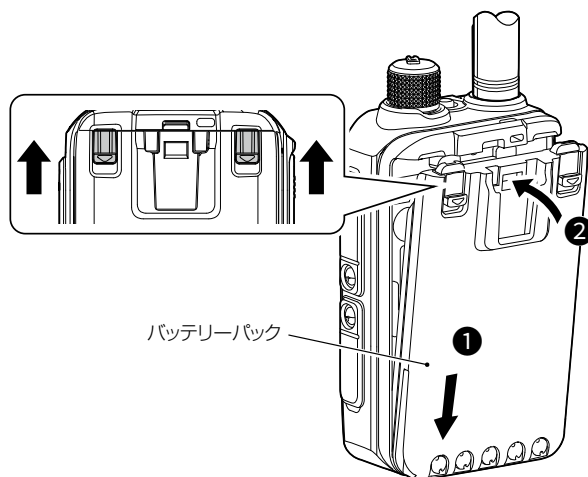
■ バッテリーパックの取り付けと取りはずし

本体の電源を切った状態で、バッテリーパックを着脱してください。

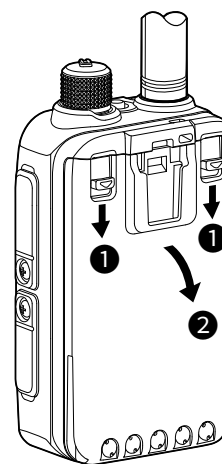
※お買い上げいただいたときや2ヵ月以上充電しなかったときは、必ず充電してからご使用ください。

※取り付けるときは、両方のラッチでバッテリーパックが固定されるまで、しっかりと押してください。

取り付けるとき



取りはずすとき



ご注意

◎バッテリーパック装着時、ベルトクリップの着脱ができませんので、先にバッテリーパックをはずしてください。

◎本製品の電源を切った状態でも、常に微少の電流が流れて、電池が消耗します。しばらく使用しないときは、バッテリーパックを本製品から取りはずしてください。

ご使用前の準備

■ 充電のしかた(SK-P65使用時)

バッテリーパックを単体、または無線機に装着した状態で充電できます。

※お買い上げいただいたときや2ヵ月以上充電しなかったときは、必ず充電してからご使用ください。

※SK-P65で充電する場合は、無線機本体のUSBコネクターには接続しないでください。

⚠危険

◎充電するときは、必ず「別売品について」(P.57)に記載の充電器をご使用ください。

◎弊社指定(SK-P62/SK-P63)以外のバッテリーパックは、絶対に充電しないでください。

◎「安全上のご注意」(P.10)を併せてお読みになり、安全な方法で充電してください。

◎充電中は、充電ランプが橙色に点灯します。

充電が完了すると緑色に点灯します。

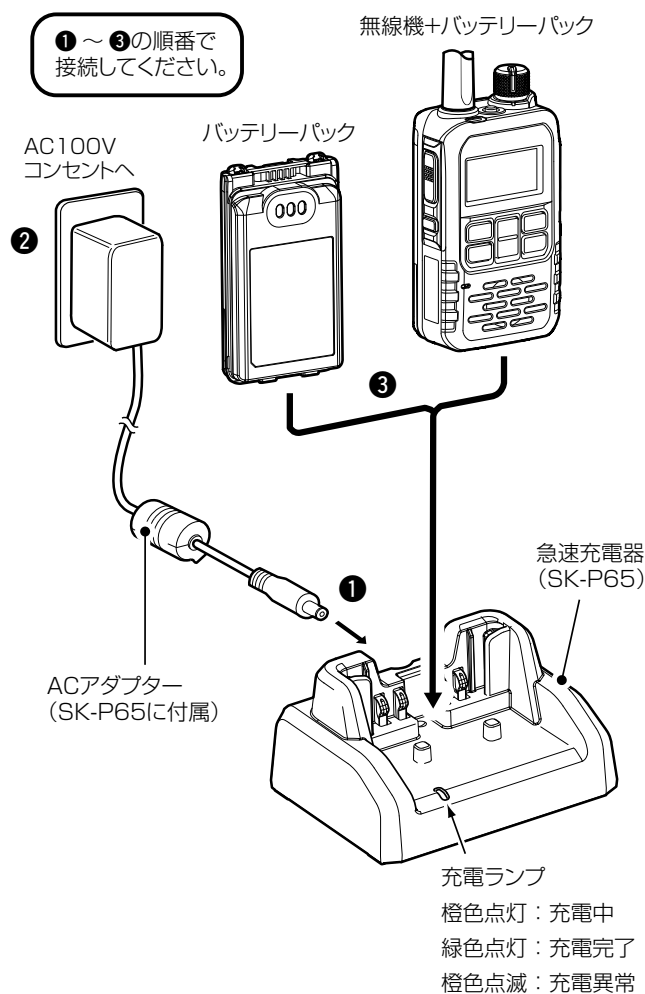
※充電異常時は、充電ランプが橙色に点滅します。下図の接続を確認し、充電しなおしてください。

◎無線機の電源操作をするときは、充電器から取りはずして操作してください。

◎充電が完了した状態で放置していても、バッテリーパックの電圧が低下すると、自動的に再充電を開始します。

※使用温度範囲(5℃～40℃)外の環境や劣化が進んだバッテリーパックを充電した場合、充電完了後すぐに再充電を開始する場合がありますが、充電器の故障ではありません。

※充電後や充電しないときは、ACコンセントからACアダプターを抜いてください。



ご使用前の準備

■ 充電のしかた(USB用ACアダプター/充電用USBケーブル使用時)

⚠危険

- ◎充電するときは、必ず「別売品について」(P.57)に記載の充電器をご使用ください。
- ◎弊社指定(SK-P62/SK-P63)以外のバッテリーパックは、絶対に充電しないでください。
- ◎「安全上のご注意」(P.10)を併せてお読みになり、安全な方法で充電してください。

◎充電中は、状態表示ランプが青色に点灯します。

充電が完了すると消灯します。

※充電異常時は、状態表示ランプが青色点滅します。下図の接続を確認し、充電しなおしてください。

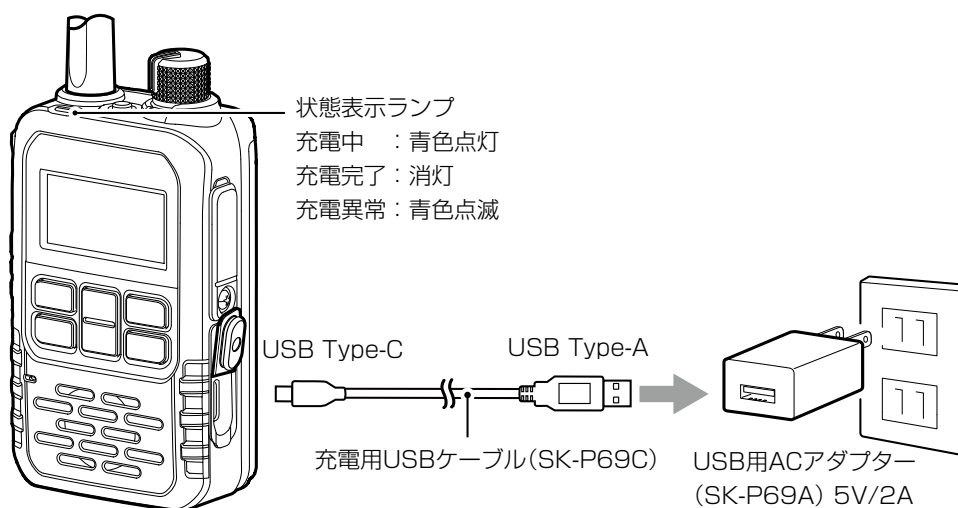
※充電中は、電池残量表示が「」になります。

◎USB充電中に、起動した状態でバッテリーパックを交換できます。

※供給電力が少ないACアダプター、パソコンのUSBポートなどを使用すると、電源が切れる、または充電ができないことがあります。

◎防水性能の維持と端子保護のため、USBケーブルを接続しないときは、しっかりと保護カバーを閉じた状態でご使用ください。

保護カバーが破損した場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。



ご使用前の準備

■ 充電時間と運用時間の目安

下記の充電時間や運用時間は目安です。

ご使用になる運用モードやバッテリーパック、充電器によって異なります。

SK-P62

電池の種類		リチウムイオン
電池の容量		1910mAh min.(2010mAh typ.)
出力電圧		7.2V
運用時間★ ¹	LTE	約13時間
充電時間★ ²	SK-P69A(USB充電)使用時	約2時間
	SK-P65使用時	約2.3時間
	SK-P66使用時	約2.5時間

SK-P63

電池の種類		リチウムイオン
電池の容量		3050mAh min.(3150mAh typ.)
出力電圧		7.2V
運用時間★ ¹	LTE	約20時間
充電時間★ ²	SK-P69A(USB充電)使用時	約3.3時間
	SK-P65使用時	約3.8時間
	SK-P66使用時	約4時間

SK-P64

電池の種類		乾電池
運用時間★ ¹	LTE	約7時間

★1 条件：送信30秒、受信30秒、待ち受け240秒の繰り返し

Bluetooth、バックライトなど付加機能はOFF

※電波条件が悪くなるにつれ運用時間は短くなります。

★2 バッテリーパックの残量がなく、本製品の電源を切った状態で充電した場合の時間です。

ご使用前の準備

■ バッテリーパックの特性と寿命について

◎バッテリーパックは消耗品です。充電できる回数は、300回～500回が目安です。

充電状況を定期的に確認してください。いつもより発熱しているなどバッテリーパックに異常があると思われたときは、使用を中止してください。

◎発火や火災の原因になることがありますので、劣化したバッテリーパックは使用しないでください。

◎使用せずに保管しているだけでも、劣化が進行します。

◎バッテリーパックを充電しながらの運用は、熱を発生しやすく高温状態となりバッテリーパックの劣化が進行しやすくなります。

◎劣化がはじまると、充電が完了しても運用時間が短くなります。

◎充電が完了しても、運用時間が極端に短くなったときは寿命です。本製品の性能を十分活用するため、長くても5年以内の交換をおすすめします。

■ バッテリーパックの膨らみについて

性質や特性により、内部が劣化し膨張することがあります。

◎ひんぱんに充電している

◎満充電直後でも再充電している

◎高温な場所で使用・保管している

◎本書で説明する充電方法と異なる

バッテリーパックが膨張した場合は、劣化に伴う寿命ですので、新しいものと交換してください。

ご使用前の準備

■ 電源の入れかた

電源/音量ツマミを時計方向に、12時の位置まで回します。

- 「カチッ」と音がして、起動中の画面が表示されます。
- 起動が完了すると、待受画面が表示されます。



電源を切るときは

電源/音量ツマミを反時計方向に「カチッ」と音がするまで回します。

※電源を切ったあと、少しのあいだ通電状態になりますので、電源を入れなおすときは、電源を切ってから10秒ほどお待ちください。

※バッテリーパックを交換するときは、「終了処理中」の表示が消えたことを確認してから、バッテリーパックを取りはずしてください。

■ 音量調整のしかた

電源/音量ツマミを回すと、音量が調整できます。

※時計方向に回し切ると、音声のひずみや、音割れの原因となります。適切な音量に調整してください。

※電源/音量ツマミに連動してキー操作音や着信時の音量が変化します。

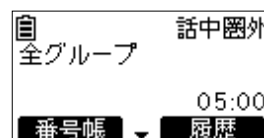


■ 通話の前に確認すること

次の内容を確認してから通話してください。

「話中圏外」が表示されていませんか

状態表示ランプが赤色に点灯し、「話中圏外」と表示されているときは、携帯電話通信サービスの圏外です。

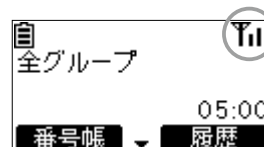


電波が届き、アンテナマークが点灯する地点まで場所を移動すると、通話できます。

電波の強い地域ですか

表示部で電波の強さを確認してください。

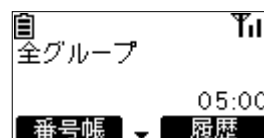
アンテナマーク2本以上が目安です。



携帯電話通信サービスエリア内でもビル陰など電波の弱い地域があります。

通話/接続先相手番号は正しいですか

通話したい相手局(例：全グループ)を設定してから発信してください。



ご使用前の準備

■ 電池の残量表示について

バッテリーパックの残量に応じて、表示が変化します。

【電池残量の目安】



※残量が少なくなりましたら、バッテリーパックを充電してください。

※USB充電中は「」が表示されます。

※乾電池ケース(SK-P64)を装着しているときは、アルカリ乾電池の残量を表示できません。

アルカリ乾電池の残量に関係なく、残量表示は「」となります。

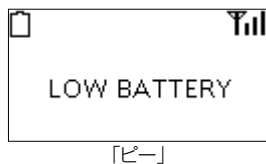
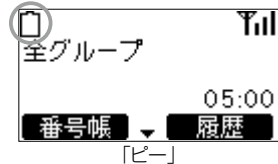
■ 電池の残量警告音について

バッテリーパック使用時、電池の残量表示が点滅したら、本製品の電源を切り、すぐに充電してください。

※残量表示が「」の状態で使用をつづけると、「LOW BATTERY」が表示され、「ピー」と警告音が1秒間鳴ったあと、電源が自動的に切れます。

※「LOW BATTERY」で電源が自動的に切れた場合、本製品の「電源/音量」を反時計方向に「カチッ」と音がするまで回して電源を切ってから、充電してください。

点滅



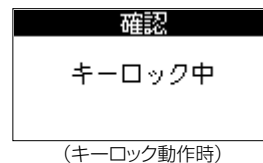
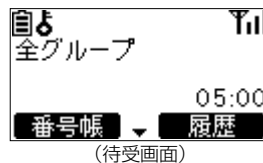
■ キーロック機能について

不用意に本製品のキーやスイッチに触れても、設定や表示が変わらないようにします。

【操作のしかた】

待受画面で、[機能]を長く(約1秒)押します。

- 「ピピピッ」と鳴って、「」が点灯します。



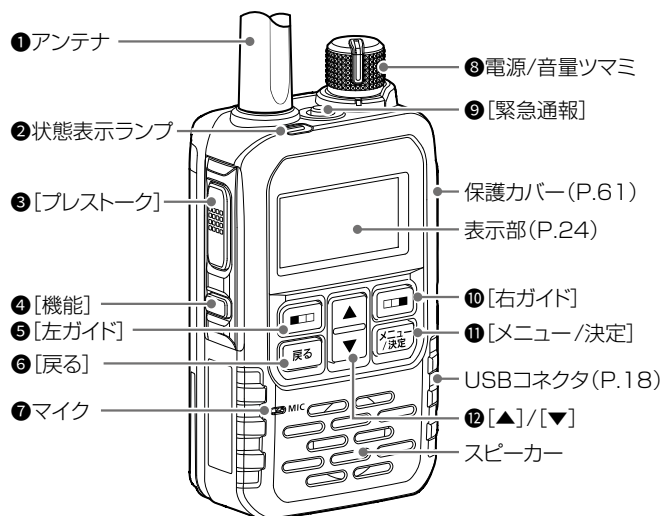
※同じ操作をすると、キーロックを解除できます。

※[プレストーク]、電源/音量ツマミ、[緊急通報]は、キーロック中でも使用できます。



各部の名称とはたらき

■ 前面部/側面部



① アンテナコネクター

付属のLTEアンテナを接続します。(P.16)

② 状態表示ランプ

消灯：待受状態/通話状態

緑点灯：送信状態

赤点灯：話中状態/圏外時/起動中/接続中

赤点滅：エラー状態/運用パラメータ、およびユーザ名(番号)変更等による設定取得中

青点灯：USB充電中

青点滅：USB充電エラー状態

③ [プレストーク]

押すと送信状態、はなすと受信状態になります。

④ [機能]

短押し：あらかじめ登録されたメニューへ移行します。

※お買い上げの販売店で設定されている場合に使用できます。設定される機能により、動作は異なります。

長押し：キーロック機能をON/OFFします。(P.22)

⑤ [左ガイド]

キーを押すと、表示部の左下に表示された機能が動作します。(例：[番号帳])

⑥ [戻る]

短押し：1つ前の画面に戻ります。

長押し：待受画面に戻ります。

※待受画面で長く押すと、宛先(ワンタッチ発信相手局)が初期設定に戻ります。

⑦ マイク

マイクに向かって話すときは、口元から約5cmはなし、普通の大きさの声で通話してください。マイクを近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、かえって相手に聞こえにくくなりますのでご注意ください。



⑧ 電源/音量ツマミ

電源を入れたり、切ったりするとき、および音量を調整するときに使用します。

⑨ [緊急通報]

◎長く押しつづけると、緊急通報信号を発呼します。

◎緊急通報中に長く押しつづけると、緊急通報を解除します。

⑩ [右ガイド]

キーを押すと、表示部の右下に表示された機能が動作します。(例：[履歴])

⑪ [メニュー/決定]

◎待受画面でキーを短く押すと、設定メニューに移ります。

◎待受画面以外でキーを短く押すと、選択が確定します。

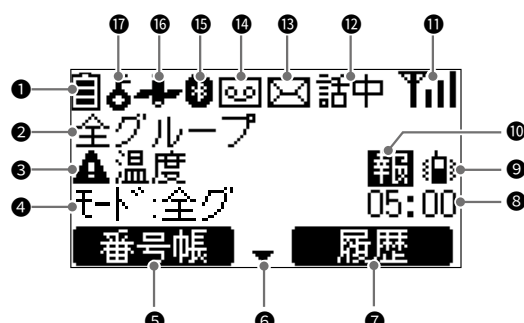
⑫ [▲]/[▼]

各機能の設定画面や履歴画面のカーソルを移動します。

各部の名称とはたらき

■表示部

※下記は説明のための表示例です。実際の画面とは異なります。



① 電池残量表示

電池残量が4段階で表示されます。(P.22)

② 宛先表示

ワンタッチ発信相手局の名称(例:全グループ)が表示されます。

③ 音量調整/温度警告/ソフトウェアエアダウンロード表示

◎電源/音量ツマミを回すと、音量調整が表示されます。(P.21)

◎本製品の温度が規定温度を超えたとき、上図が表示されます。(P.51)

◎ソフトウェアのダウンロード中は「FIRM DL」と表示され、完了すると「FIRM OK」と表示されます。(P.67)

④ 通話モード表示

送信、および着信画面で表示される選択呼出種別(例:一斉)です。

一斉:全グループ一斉通話モード

全グ:全グループ通話モード

グル:グループ通話モード

個別:個別通話モード

優先:個別優先通話モード

隣接:隣接通信通話モード

⑤ [左ガイド]の機能表示

[左ガイド](例:番号帳)で動作する機能が表示されます。

⑥ 表示

[▲]/[▼]の操作で、画面を切り替えできるとき、表示されます。

⑦ [右ガイド]の機能表示

[右ガイド](例:履歴)で動作する機能が表示されます。

⑧ 通話時限表示

通話残時間が1秒刻みで表示(例:05:00)されます。

⑨ バイブレーション機能表示

バイブレーション機能(P.49)が設定されているとき、表示されます。

⑩ 緊急速報メール表示

未読の緊急速報メールがあるとき、表示されます。

⑪ 受信電界強度表示

LTE回線への接続状態と信号強度が表示されます。

: 接続中で、信号強度が「強」のとき

: 接続中で、信号強度が「中」のとき

: 接続中で、信号強度が「弱」のとき

: 接続中で、信号強度が「微弱」のとき

話中: 回線に接続できないとき

⑫ 無線回線状態表示

回線状態が表示されます。

通話: 通話が確立されたとき

話中: 通話が確立して、音声やデータ信号を受信中の状態

送信: 通話が確立して、音声を送信中の状態

⑬ メール表示

受信メールの状態が表示されます。

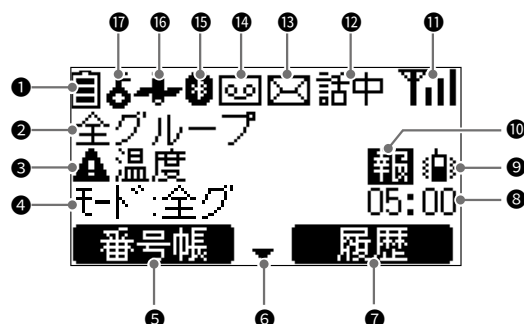
: 未読メールがあるとき

: メールボックスがいっぱいで、新着メールが受信できないとき

各部の名称とはたらき

■表示部

※下記は説明のための表示例です。実際の画面とは異なります。



⑭ 通話メモ表示

通話メモが設定されているとき、表示されます。

⑮ Bluetooth機能表示

Bluetooth機能(P.50)が設定されているとき、表示されます。

📶: Bluetooth対応のイヤホンマイクが未接続のとき

📶: Bluetooth対応のイヤホンマイクが接続中のとき

⑯ GPS機能表示 📍

GPS機能が設定されているとき、GPS通知設定の状態が表示されます。

未測位のとき : 点滅

測位完了のとき : 点灯

※この機能を使用するには、運用パラメータでGPS受信機モードを有効に設定してください。

⑰ キーロック機能表示 🗝

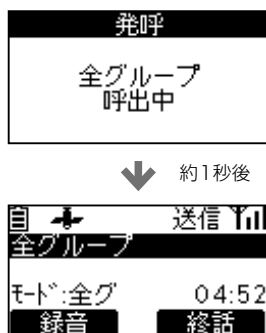
キーロック機能(P.22)が設定されているとき、表示されます。

通話する(ワンタッチ発信)

待ち受け中、ワンタッチ発信相手局が表示されます。
[プレストーク]を押すだけで発信できます。

1 [プレストーク]を押しつづける

状態表示ランプが緑色に点灯します。
(例：ワンタッチ発信相手局が「全グループ」の場合)



ご参考

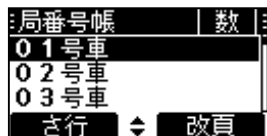
ワンタッチ発信相手局は、局番号帳から選択できます。
手順については、「ワンタッチ発信相手局を切り替える」
(P.47)をご覧ください。

通話する(局番号帳発信)

1 局番号帳を呼び出す

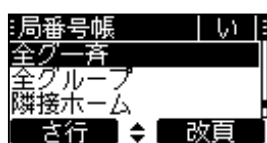
[左ガイド](番号帳)を押します。

- あらかじめ登録されている名称が読み順に表示されます。



2 相手局の名称を選択する

[▲]/[▼]を押すと、選択局が替わります。



(選択例: 全グループ)

- 押しつづけると、選択局が連続で1件ずつ切り替わります。
- ※[右ガイド](改頁)を押すと、10件先の選択局が表示されます。
- ※[左ガイド](例: さ行)を押すと、各文字の先頭に移動します。

3 [メニュー/決定]を押す

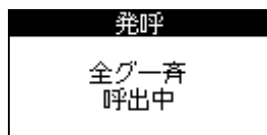
表示が切り替わります。



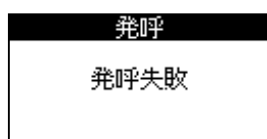
- ※「発呼」が選択されていない場合は、[▲]/[▼]を押して、「発呼」を選択します。

4 [メニュー/決定]を押す

発呼され、表示が切り替わります。



- ※接続が成功すると、「ピッピ」と通話指示音が鳴ります。
- ※接続に失敗すると、表示が切り替わると同時に、「ププププ」と鳴ります。



5 通話する

こちらから音声を送るには

[プレストーク]を押しながら通話します。



※状態表示ランプが緑色に点灯し、「ピッ」と送信権獲得音が鳴ってからお話ください。

お話しできない場合は、「ププププ」と鳴ります。

相手から音声を受けるときは

[プレストーク]をはなします。

- 状態表示ランプが赤色に点灯し、相手局の名称、または個別番号が表示され、音声聞こえます。



マイクの使いかた

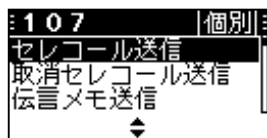
マイクに向かって話すときは、口元から約5cmはなし、普通の大きさの声で通話してください。マイクを近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、かえって相手に聞こえにくくなりますのでご注意ください。

通話する(局番号帳発信)

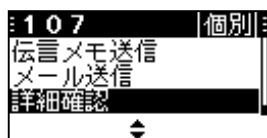
6 通話モードとユーザ名(番号)を確認するには

下記の操作で通話モードとユーザ名(番号)を確認できます。

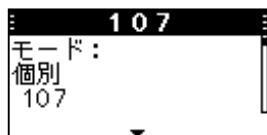
1. 手順5の通話後、待受画面に切り替わる(終話)前に、
[メニュー/決定]を押します。
 - 詳細確認が表示されます。



2. [▼]を押し、「詳細確認」を選択します。



3. [メニュー/決定]を押します。
 - 通話モードが表示されます。



4. [▼]を押します。
 - ユーザ名(番号)が表示されます。



待受画面で確認するには

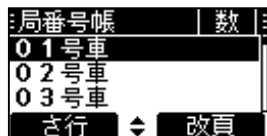
[▼]を押すと、発呼する通話モードが表示され、再度[▼]を押すと、ユーザ名(番号)が表示されます。

通話する(番号入力発信)

1 局番号帳を呼び出す

[左ガイド](番号帳)を押します。

- あらかじめ登録されている名称が読み順に表示されます。



2 「番号入力」を選択する

[▲]/[▼]を押し、「番号入力」を選択します。



- 押しつづけると、選択局が連続で1件ずつ切り替わります。
- ※ [右ガイド](改頁)を押すと、10件先の選択局が表示されます。
- ※ [左ガイド](例: 数字)を押すと、各文字の先頭に移動します。

3 [メニュー/決定]を押す

番号入力画面が表示されます。



4 通話モードを選択する

[左ガイド](モード)を押すと、通話モードが替わります。

番号入力ができる通話モードは「個別」(個別通話モード)、「グル」(グループ通話モード)、「優先」(個別優先通話モード)です。



(選択例: 個別)

※ 押すごとに「グル」(グループ通話モード)→「全グ」(全グループ通話モード)→「隣接」(隣接通信通話モード)→「一斉」(全グループ一斉通話モード)→「優先」(個別優先通話モード)→「個別」(個別通話モード)→「グル」と切り替わります。

5 個別番号/グループ番号を入力する

[▲]/[▼]を押して、数字(0～9)を入力します。

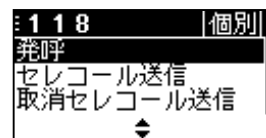
[右ガイド]を押すと、入力する場所が替わります。



6 [メニュー/決定]を押す

下図の表示に切り替わります。

※「発呼」が選択されていない場合は、[▲]/[▼]を押して、「発呼」を選択します。

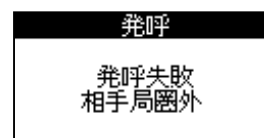


7 [メニュー/決定]を押す

発呼され、下図の表示に切り替わります。

※ 接続が成功すると、「ピッピー」と通話指示音が鳴ります。

※ 接続に失敗すると、下図の表示(例)に切り替わると同時に、「ブブブブ」と鳴ります。



通話する(番号入力発信)

■ 状態表示ランプが赤色に点灯したら

圏外、または発信禁止状態です。

通話中などの場合は、失敗理由が表示されます。

また、個別通話モードの発信で、相手局が通話中の場合は、「プップップ」と音が鳴り、「発呼失敗 相手局話中」などと表示されます。

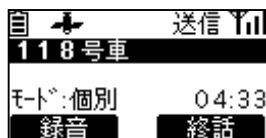
8 通話する

こちらから音声を送るには

[プレストーク]を押しながら通話する

※状態表示ランプが緑色に点灯し、「ピッ」と送信権獲得音が鳴ってからお話ください。

お話しできない場合は、「プップップ」と鳴ります。



相手から音声を受けるときは

[プレストーク]をはなす

※状態表示ランプが赤色に点灯し、相手局の名称、または個別番号が表示され、音声が聞こえます。

ご参考

- 全グループ斉通話モード、全グループ通話モード、隣接通信通話モードの場合は、手順4(P.29)で、[メニュー/決定]を押すと、発信画面になります。
- 手順6(P.29)で、[プレストーク]を押しても発呼できません。
- 局番号帳画面で個別番号、全グループ斉、および全グループを選択して[プレストーク]を押すと、発呼できます。
- 全グループ斉通話(P.27)、および個別優先通話(P.29)をするには、あらかじめ販売店での保守設定が必要です。

通話する(着信)

通話を受けると、通話を受けたときの通話モード、相手局の名称、または番号が表示され、下表の各種着信音で通知します。

また、バイブレーションをONに設定(P.49)している場合は、振動でも確認できます。

通話モード	着信音	バイブレーションをON
全グループ斉通話	ピーポーピーポー	振動する
全グループ通話	なし	振動しない
グループ通話	なし	振動しない
個別通話	ピッポー	振動する
個別優先通話	ピッポー	振動する
隣接通信通話	なし	振動しない

※各種着信音は販売店の保守設定により異なります。

■ 全グループ通話モード着信時

1 通話する

こちらからの音声を送るには

[プレストーク]を押しながら通話する

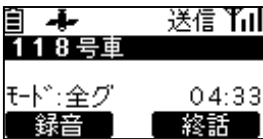
※状態表示ランプが緑色に点灯し、「ピッ」と送信権獲得音が鳴ってからお話してください。

お話しできない場合は、「プップッ」と鳴ります。

相手から音声を受けるときは

[プレストーク]をはなす

※状態表示ランプが赤色に点灯し、相手局の名称、または個別番号が表示され、音声聞こえます。



■ 通話中の全グループ斉受信について

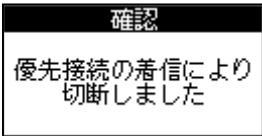
通話の途中で全グループ斉通話の呼び出しを受信すると、通話は強制終了(切断)となり、全グループ斉通話となります。

この場合は、全グループ斉通話となるまで予約状態となります。

■ 通話中の個別優先受信について

通話の途中で個別優先通話の呼び出しを受けると、通話は強制終了(切断)となり、個別優先通話となります。

この場合、個別通話の相手局に対しては、通話切断理由が表示されます。



■ 通話の終了について

終話について

通話制限時間が経過すると終話となります。

通話制限時間の10秒前に「ピッ」と終話予告音が鳴ります。

終話のときには、「プー」と終話音が鳴ります。

通話時は、通話制限時間内であっても、自局、および相手局が共に送信していない時間が5秒つづくで終話となります。

残時間表示は目安です。

0秒と表示されてから終話するまで、しばらく時間がかかる場合があります。

強制終話・切断について

通話中に通話を抜ける機能です。

全グループ通話、グループ通話、隣接通信通話で通話中の場合 [プレストーク]をはなし、[右ガイド](終話)を押します。

発信局は、相手局も同時に終話します。

着信局は、自局のみ終話します。

自局のみ終話する場合は、用件が済んだことを確認の上、ご自身の責任で操作してください。

個別通話、個別優先通話で通話中の場合

操作は全グループ通話、グループ通話と同様です。

相手局も同時に終話しますので切断という扱いになります。

※全グループ斉通話受信中だけ、終話はできません。

ご参考

相手局の名称を表示するためには、あらかじめ販売店での保守設定が必要です。

発信履歴から発信する

発信した履歴を確認し、以前発信した相手局に再度発信できます。

1 発信履歴を呼び出す

[右ガイド] (履歴) を押します。

- 最新の発信履歴 (最大 10 件の発信相手局の名称、および通話モード) が表示されます。



2 相手局の名称を選択する

[▲]/[▼] を押すと、選択局が替わります。

(選択例：個別 107)



- 押しつづけると、選択局が連続で1件ずつ切り替わります。

3 [プレストーク] を押す

発呼され、下図が表示されます。

- ※ [メニュー/決定] を押して、[▲]/[▼] で「発呼」を選択し、[メニュー/決定] を押しても発呼できます。



ご参考

- 手順2、または手順3で[左ガイド] (クリア) を押すと、登録されている発信履歴をすべて消去します。
- 手順2、または手順3で[右ガイド] (切替) を押すと、画面が着信履歴に切り替わります。

着信履歴から発信する

着信した履歴を確認し、以前着信した相手局にかけなおすことができます。

1 着信履歴を呼び出す

[右ガイド] (履歴) を2回押します。

- 最新の着信履歴 (最大 10 件の発信相手局の名称、および通話モード) が表示されます。



2 相手局の名称を選択する

[▲]/[▼] を押すと、選択局が替わります。

(選択例: 個別 107)

- 押しつづけると、選択局が連続で1件ずつ切り替わります。



3 [プレストーク] を押す

発呼され、下図が表示されます。

- ※ [メニュー/決定] を押して、[▲]/[▼] で「発呼」を選択し、[メニュー/決定] を押しても発呼できます。



ご参考

- 手順2、または手順3で[左ガイド] (クリア) を押すと、登録されている着信履歴をすべて消去します。
- 手順2、または手順3で[右ガイド] (切替) を押すと、画面が発信履歴に切り替わります。

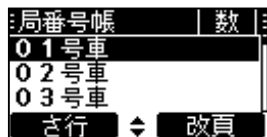
セレコール

相手局が不在の場合でも、呼び出しがあったことを相手局に音と表示で通知します。

1 局番号帳を呼び出す

[左ガイド] (番号帳) を押します。

- あらかじめ登録されている名称が読み順に表示されます。



2 相手局の名称を選択する

[▲]/[▼] を押すと、選択局が替わります。

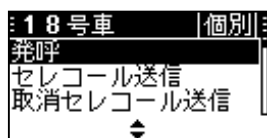


(選択例：18号車)

- 押しつづけると、選択局が連続で1件ずつ切り替わります。
- ※ [右ガイド] (改頁) を押すと、10件先の選択局が表示されます。
- ※ [左ガイド] (例：さ行) を押すと、各文字の先頭に移動します。

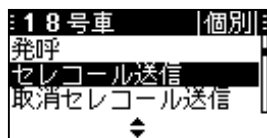
3 [メニュー/決定] を押す

表示が切り替わります。



4 「セレコール送信」を選択する

[▲]/[▼] を押し、「セレコール送信」を選択します。



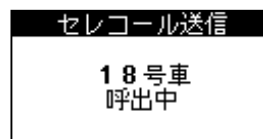
5 [メニュー/決定] を押す

セレコールを送信して、下図が表示され、「ピッピー」と鳴ります。

セレコール送信が成功すると状態表示ランプが緑色に点灯し、「ピッポー」と鳴ります。

※セレコールを受信した相手局では、「ピッポー」が3回鳴り(初期設定)、下図が表示されます。

また、下図の表示で、[プレストーク] を押すと、セレコール送信元へ応答できます。



(セレコール受信画面表示例)

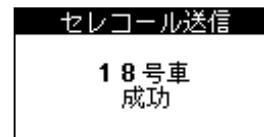
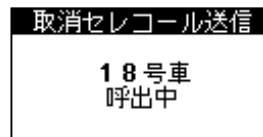
取消セレコールについて

自局から送信したセレコールを取り消すときは、手順4で「取消セレコール送信」を選択します。

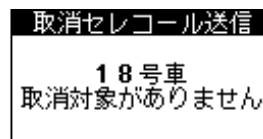
取消セレコールを送信して、下図が表示され、「ピッピー」と鳴ります。

取消セレコール送信が成功すると状態表示ランプが緑色に点灯し、「ピッポー」と鳴ります。

※取消セレコールを受信した相手局では、「ピッポー」と鳴り、セレコール受信画面を解除して待ち受け画面に戻ります。



※セレコールを受信した相手局がセレコール受信画面を解除(いずれかのキーを押す)していたときは、取消セレコール送信元では「ピー」と鳴り、下図が表示されます。



ご参考

- 個別通話モード、または個別優先通話モードの番号入力発信(P.29)、発信履歴(P.32)、および着信履歴(P.33)からも相手局番号を入力、または相手局を選択後、手順3以降の操作をするとセレコール/取消セレコール送信ができます。
- 「ブブブブ」と鳴り、「発呼禁止」が表示されたときは、セレコール送信が禁止に設定されている場合があります。あらかじめ販売店での保守設定が必要です。

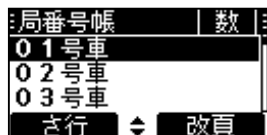
メールを送信する

あらかじめ登録された定型文をメール送信します。

1 局番号帳を呼び出す

[左ガイド] (番号帳) を押します。

- あらかじめ登録されている名称が読み順に表示されます。



2 相手局の名称を選択する

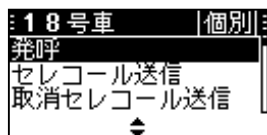
[▲]/[▼] を押すと、選択局が替わります。



- 押しつづけると、選択局が連続で1件ずつ切り替わります。
- ※ [右ガイド] (改頁) を押すと、10件先の選択局が表示されます。
- ※ [左ガイド] (例：さ行) を押すと、各文字の先頭に移動します。

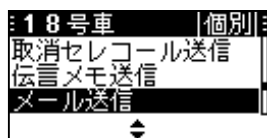
3 [メニュー/決定] を押す

表示が切り替わります。



4 「メール送信」を選択する

[▲]/[▼] を押し、「メール送信」を選択します。



5 [メニュー/決定] を押す

下図の表示に切り替わります。

- 最上段にあらかじめ登録されている定型文 (例) が表示されます。

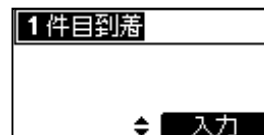


6 登録されている定型文を選択する

[▲]/[▼] を押し、登録されている定型文 (最大30件) を選択します。

(選択例：1件目到着)

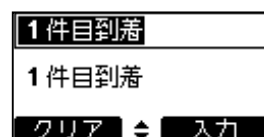
※ 定型文が全角10文字より長いときは、はじめの全角10文字が表示されます。



7 選択した定型文を入力する

[右ガイド] (入力) を押します。

- 選択した定型文が下段に入力されます。
- ※ [左ガイド] (クリア) を短く押すごとに最後の1文字が消去され、押しつづけると全文が消去されます。



【定型文を追加するには】

再度、手順6→手順7の操作をすると、先に入力した定型文のうしろに新たな定型文が追加/消去できます。

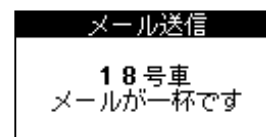
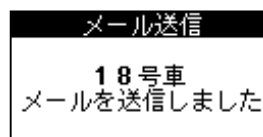
※ 定型文の組み合わせ最大文字数は全角24文字です。

8 [メニュー/決定] を押す

メールを送信して、下図が表示され、「ピッピー」と鳴ります。メール送信が成功すると状態表示ランプが緑色に点灯し、「ピッポー」と鳴ります。

※ メールを受信した相手局では、「ピッポー」が3回鳴って、通話画面が表示されたあと、待ち受け画面に戻り、アイコンエリアに「☑」が表示されます。

※ 相手局のメールBOXがいっぱいで受信できないときは、下図が表示されます。



ご参考

個別通話モード、または個別優先通話モードの番号入力発信 (P.29)、発信履歴 (P.32)、および着信履歴 (P.33) から相手局番号を入力、または相手局を選択後、手順3以降の操作をするとメール送信ができます。

受信メール履歴

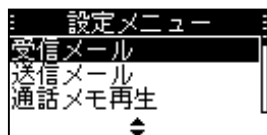
受信したメールの履歴、および内容を確認し、メールの返信ができます。

1 設定メニューを呼び出す

待ち受け画面の状態で[メニュー/決定]を押します。

- 設定メニュー画面が表示されます。

※「受信メール」が選択されていない場合は、[▲]/[▼]を押して、「受信メール」を選択します。



2 [メニュー/決定]を押す

受信メールに切り替わります。

- 受信メール履歴(最大10件の着信相手局の名称、およびその名称の前にメールが未読メールか既読メールかを示すマーク)が表示されます。

☐：未読メール

☑：既読メール

※メールを受信できる最大文字数は全角96文字です。

※文末まで表示(手順4)させると、既読メールになります。



3 表示させたい相手局を選択する

[▲]/[▼]を押し、メール内容を表示させたい相手局を選択します。(選択例：107)

※[左ガイド](クリア)を押すと、選択している既読メールのみ消去します。

未読メールは消去できません。

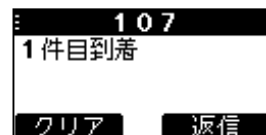
※[右ガイド](切替)を押すと、「送信メール履歴」の手順3に切り替わります。



4 [メニュー/決定]を押す

受信メール履歴の受信内容が表示されます。

- 受信メールの内容につづきがある場合は、[▼]を押すと、つづきの内容が表示されます。
- つづきの受信メールの内容を表示中に、[▲]を押すと、1つ前の受信メール画面に戻ります。



※[左ガイド](クリア)を押すと、表示されている既読メールのみ消去します。

未読メールは消去できません。

※[メニュー/決定]を押すと、メール送信元に発呼します。

※[右ガイド](返信)を押すと、「メールを送信する」の手順5(P.35)に切り替わります。

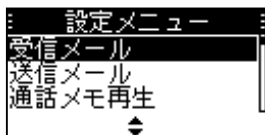
送信メール履歴

送信したメールの履歴、および内容を確認し、メールの再送信ができます。

1 設定メニューを呼び出す

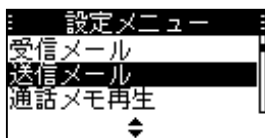
待ち受け画面の状態で[メニュー/決定]を押します。

- 設定メニュー画面が表示されます。



2 「送信メール」を選択する

[▲]/[▼]を押し、「送信メール」を選択します。



3 [メニュー/決定]を押す

送信メールに切り替わります。

- 送信メール履歴(最大10件の着信相手局の名称、およびその名称の前にメールが未読メールか既読メールかを示すマーク)が表示されます。
 - ：送信済み(送信成功)
 - ×：未送信(送信失敗)



4 表示させたい相手局を選択する

[▲]/[▼]を押し、メール内容を表示させたい相手局を選択します。 (選択例：107)

※[左ガイド](クリア)を押すと、選択しているメールを消去します。

※[右ガイド](切替)を押すと、「受信メール履歴」の手順3 (P.36)に切り替わります。



5 [メニュー/決定]を押す

送信メールの内容が表示されます。



※[左ガイド](クリア)を押すと、選択しているメールを消去します。

※[メニュー/決定]を押すと、メール送信先の相手局に発呼します。

※[右ガイド](再送)を押すと、再度同じメールを送信します。

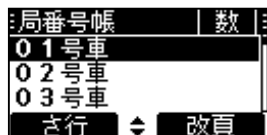
伝言メモを送信する

相手局の留守録にメッセージを録音します。

1 局番号帳を呼び出す

[左ガイド] (番号帳) を押します。

- あらかじめ登録されている名称が読み順に表示されます。



2 相手局の名称を選択する

[▲]/[▼] を押すと、選択局が替わります。

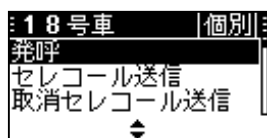


(選択例：18号車)

- 押しつづけると、選択局が連続で1件ずつ切り替わります。
- ※ [右ガイド] (改頁) を押すと、10件先の選択局が表示されます。
- ※ [左ガイド] (例：3行) を押すと、各文字の先頭に移動します。

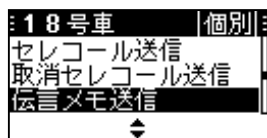
3 [メニュー/決定] を押す

表示が切り替わります。



4 「伝言メモ送信」を選択する

[▲]/[▼] を押し、「伝言メモ送信」を選択します。



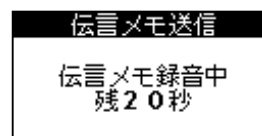
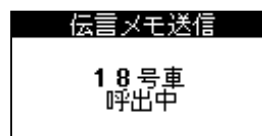
5 [メニュー/決定] を押す

下図の表示に切り替わり、「ピッピー」と鳴り、発呼します。接続が成功すると状態表示ランプが緑色に点灯し、「ピッポー」と鳴ります。

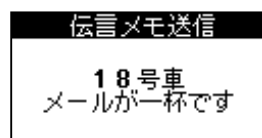
伝言メモ録音中画面に切り替わりますので、3秒以内に[プレストーク] を押しながらマイクに向かってお話しください。

表示の残り秒数、録音できます。

[プレストーク] をはなすと一定時間後に録音を停止し、待ち受け画面に戻ります。



※ 相手局のメールBOXがいっぱいで受信できないときは、下記が表示されます。



ご参考

伝言メモ録音時間は、販売店での保守設定により変更できます。

伝言メモを再生する

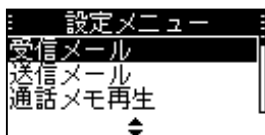
相手局から自局宛に録音された留守録メッセージを再生します。

1 設定メニューを呼び出す

待ち受け画面の状態で[メニュー/決定]を押します。

- 設定メニュー画面が表示されます。

※「受信メール」が選択されていない場合は、[▲]/[▼]を押して、「受信メール」を選択します



2 [メニュー/決定]を押す

受信メールに切り替わります。

※伝言メモ履歴(最大6件の着信相手局の名称、およびその名称の前に伝言メモが未確認か確認済みかを示すマーク)が表示されます。

通話メモ録音(P.40)が設定されているときは、伝言メモ履歴の登録は最大5件となります。



ご参考

伝言メモ履歴の登録件数は、販売店での保守設定により変更できます。

3 再生する相手局を選択する

[▲]/[▼]を押し、伝言メモを再生する相手局を選択します。(選択例：107)

※[左ガイド](クリア)を押すと、選択している確認済みの伝言メモを消去します。

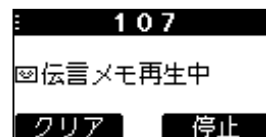
※[右ガイド](切替)を押すと、「送信メール履歴」(P.37)の手順3に切り替わります。



4 [メニュー/決定]を押す

表示に切り替わり、伝言メモが再生されます。

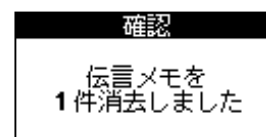
- 再生が終了すると、手順3の表示に戻ります。



※伝言メモ再生中に[右ガイド](停止)を押すと、再生を停止し、手順3の表示に戻ります。

※伝言メモ再生中に[メニュー/決定]を押すと、再生を停止して伝言メモ送信元に発呼します。

※伝言メモ再生中に[左ガイド](クリア)を押すと、再生を停止して下図の表示に切り替わり、伝言メモを消去します。



通話メモ録音の設定と解除(待ち受け中)

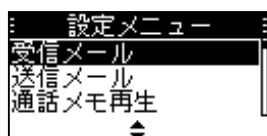
相手局の音声を録音するための設定と解除ができます。
通話メモ設定中は、アイコンエリアに「」が表示されます。

■ 通話メモ録音を設定する(待ち受け中)

1 設定メニューを呼び出す

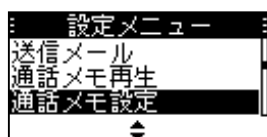
待ち受け画面の状態で[メニュー/決定]を押します。

- 設定メニュー画面が表示されます。



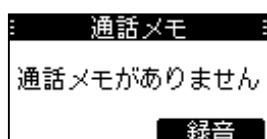
2 「通話メモ設定」を選択する

[▲]/[▼]を押し、「通話メモ設定」を選択します。



3 [メニュー/決定]を押す

下図の表示に切り替わります。

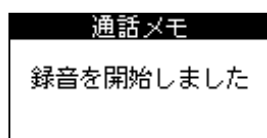


4 [右ガイド](録音)を押す

下図が表示され、録音設定が完了すると待ち受け画面に戻ります。

※通話メモ録音があるときは録音を消去して、録音待機状態となります。

通話がはじまると、自動で録音が始まります。

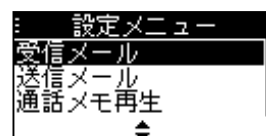


■ 通話メモ録音を解除する(待ち受け中)

1 設定メニューを呼び出す

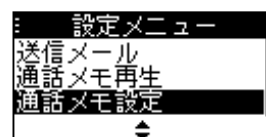
待ち受け画面の状態で[メニュー/決定]を押します。

- 設定メニュー画面が表示されます。



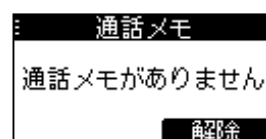
2 「通話メモ設定」を選択する

[▲]/[▼]を押し、「通話メモ設定」を選択します。



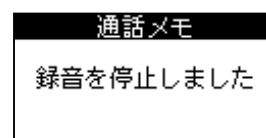
3 [メニュー/決定]を押す

下図の表示に切り替わります。



4 [右ガイド](解除)を押す

下図が表示され、録音設定が解除されると待ち受け画面に戻ります。



ご参考

通話を受信しているときは録音し、無音は録音されません。

通話メモの録音と停止(通話中)

通話中に自局、および相手局の通話音声を録音できます。
通話メモ録音中は、アイコンエリアに「」が表示されます。

■ 通話メモを録音する(通話中)

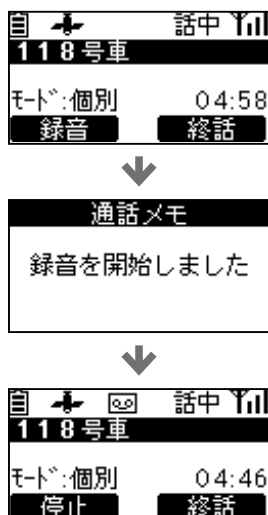
1 通話中に[左ガイド](録音)を押す

通話中(例：118号車と通話)でアイコンエリアの「」が非表示のとき、[左ガイド](録音)を押すと、録音を開始します。

- 通話内容は60秒間★、録音できます。
60秒★経過しても録音は停止せず、常に最新の60秒間★を録音しつづけます。

★設定により録音時間が異なります。

※アイコンエリアに「」が表示されているときは録音中です。



■ 通話メモ録音を停止する(通話中)

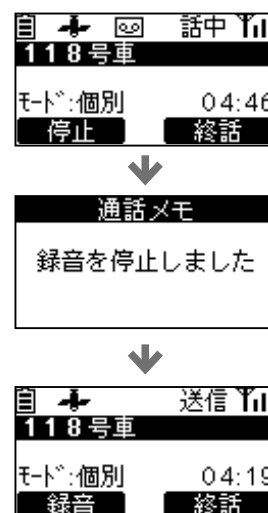
1 通話中に[左ガイド](停止)を押す

通話中(例：118号車と通話)でアイコンエリアに「」が表示されているとき、[左ガイド](停止)を押すと、録音を停止します。

- 録音停止前の約60秒間の録音内容が保持されます。(録音時間60秒設定の場合)

※再度、[左ガイド](録音)を押すと、録音が再開されます。

このとき、前回の録音内容は消去されます。



ご参考

通話メモ録音時間は、販売店での保守設定により変更できます。

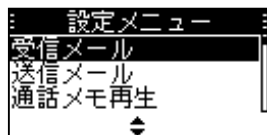
通話メモを再生する

録音した自局、および相手局の通話音声を再生できます。

1 設定メニューを呼び出す

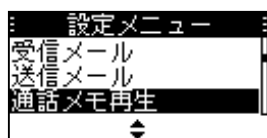
待ち受け画面の状態ですべてのメニュー/決定を押します。

- 設定メニュー画面が表示されます。



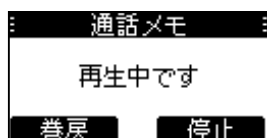
2 「通話メモ再生」を選択する

[▲]/[▼]を押し、「通話メモ再生」を選択します。



3 [メニュー/決定]を押す

録音した音声は、約10秒前から再生されます。



※[左ガイド](巻戻)を1回押して約20秒前、2回押して約60秒前、3回押して約120秒前に、通話メモ終了の位置から巻き戻して再生されます。

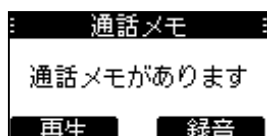
巻き戻した秒数が先頭位置以前になったときは、先頭から再生されます。

また、長押しすると先頭から再生されます。

※[右ガイド](停止)を押すと、再生を途中で中止して、通話メモ設定画面に切り替わります。

この画面で、[左ガイド](再生)を押すと、録音した音声は約10秒前から再生されます。

[メニュー/決定](録音)の動作は、「■ 通話メモ録音を設定する(待ち受け中)」の手順4(P.40)と同じ動作になります。



緊急通報

待ち受け画面の状態ですら[緊急通報]を押すつづけると、緊急通報を発呼します。

※この機能を使用するには、運用パラメータで緊急通報を有効に設定してください。

1 [緊急通報]を押すつづける

「目」以外のアイコンが消灯し、緊急通報を発呼します。



緊急通報を解除するには

[緊急通報]を押すつづけます。

- 待ち受け画面に戻ります。

ご注意

緊急通報機能は、タクシー強盗など、危険がさし迫っているときに相手(犯人)に気づかれないように指令局等に通報できる機能です。

したがって、ピープ音やランプ点灯などの動作はなく、手順1の表示変化のみになっています。

また、緊急通報中でもGPS位置情報(P.56)の送信や、ソフトウェアエアダウンロード(P.67)は継続します。

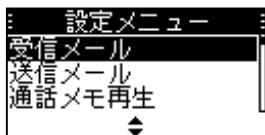
ユーザーを切り替える

ユーザーが複数ある場合、ユーザーを切り替えて通話できます。

1 設定メニューを呼び出す

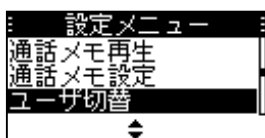
待ち受け画面の状態ですべてのメニューを呼び出す。

- 設定メニュー画面が表示されます。



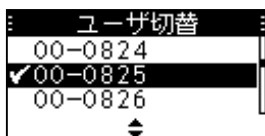
2 「ユーザ切替」を選択する

[▲]/[▼]を押して、「ユーザ切替」を選択します。



3 [メニュー/決定]を押す

ユーザ切替画面が表示されます。



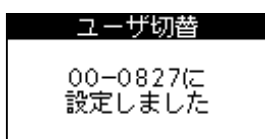
4 切り替えたいユーザ名(番号)を選択する

[▲]/[▼]を押して、切り替えたいユーザ名(番号)を選択します。
(選択例：00-0827)



5 [メニュー/決定]を押す

「ピピピ」と鳴り、設定完了の画面が表示されます。



自局情報を確認する

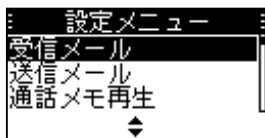
登録されている場合、下記に対する内容が順次表示されます。

自局情報	表示内容
メインユーザ	名称、または番号と自局番号
	所属する着グループ番号
サブユーザ	名称、または番号と自局番号
	所属する着グループ番号
機体番号	個体識別用番号
ソフトウェアバージョン	ソフトウェアのバージョン
運パラバージョン	運用パラメータのバージョン
情報更新履歴番号	移動局情報の履歴番号
管理番号	SIMスロットに挿入されたSIMの電話番号下4ケタを表示
接続中の回線種別	接続中の回線種別を表示
接続中の基地局番号	接続中の基地局番号を表示
GPSの衛星捕捉数	GPSの衛星補足数を表示
SIM情報	MAINスロット、SUBスロットに挿入されたSIMの情報を表示

1 設定メニューを呼び出す

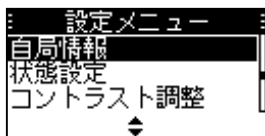
待ち受け画面の状態で[メニュー/決定]を押します。

- 設定メニュー画面が表示されます。



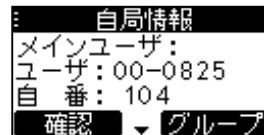
2 「自局情報」を選択する

[▲]/[▼]を押し、「自局情報」を選択します。



3 [メニュー/決定]を押す

自局情報画面が表示されます。(例：メインユーザ)



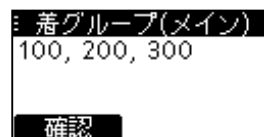
【ほかの自局情報を確認するには】

[▼]を押します。

【着グループ番号を確認するには】

[右ガイド] (グループ) を押します。

※ほかの自局情報をつづけて確認するときは、[戻る]を押してから、手順4に進みます。



【待ち受け画面に戻すには】

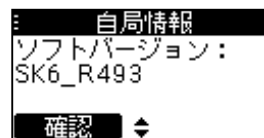
[左ガイド] (確認) を押します。

※再度、確認するときは、手順1からやりなおしてください。

4 ほかの自局情報を確認する

[▼]を繰り返し押します。

※1つ前の情報表示に戻るときは、[▲]を押します。



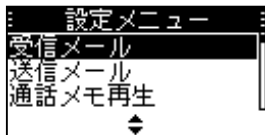
コントラストを調整する

表示の濃淡を調整します。

1 設定メニューを呼び出す

待ち受け画面の状態で[メニュー/決定]を押します。

- 設定メニュー画面が表示されます。



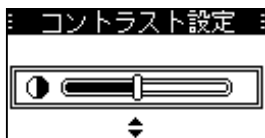
2 「コントラスト調整」を選択する

[▲]/[▼]を押し、「コントラスト調整」を選択します。



3 [メニュー/決定]を押す

コントラスト設定画面が表示されます。



4 コントラストを調整する

[▲]/[▼]を押します。

◎濃くするときは、[▲]を押します。

◎薄くするときは、[▼]を押します。

※調整後は、[メニュー/決定]を押します。

※[戻る]を押すと手順2の画面に戻りますが、調整値は元に戻らず、現在の値で確定します。

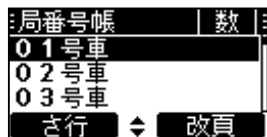
ワンタッチ発信相手局を切り替える

ワンタッチ発信相手局、待ち受け着信グループを局番号帳から選択し、切り替えることができます。

1 局番号帳を呼び出す

[左ガイド] (番号帳) を押します。

- あらかじめ登録されている名称が読み順に表示されます。



2 相手局の名称を選択する

[▲]/[▼] を押すと、選択局が替わります。

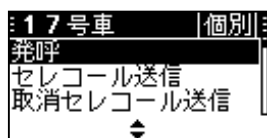


(選択例：全グー斉)

- 押しつづけると、選択局が連続で1件ずつ切り替わります。
- ※ [右ガイド] (改頁) を押すと、10件先の選択局が表示されます。
- ※ [左ガイド] (例：さ行) を押すと、各文字の先頭に移動します。

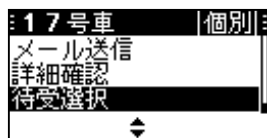
3 [メニュー/決定] を押す

表示が切り替わります。



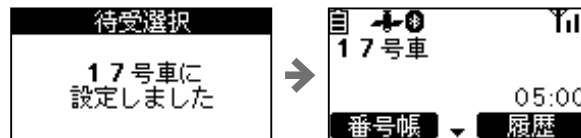
4 「待受選択」を選択する

[▲]/[▼] を押し、「待受選択」を選択します。



5 [メニュー/決定] を押す

「ビピピ」と鳴り、待ち受け画面に戻ります。
待ち受ける局番号が選択した相手に替わります。



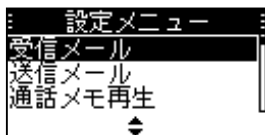
状態を設定する

下記の操作で設定した自局の状態を動態管理システムに通知できます。

1 設定メニューを呼び出す

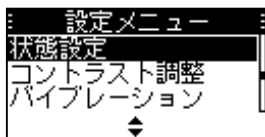
待ち受け画面の状態です[メニュー/決定]を押します。

- 設定メニュー画面が表示されます。



2 「状態設定」を選択する

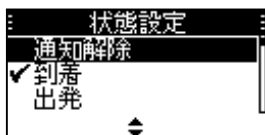
[▲]/[▼]を押し、「状態設定」を選択します。



3 [メニュー/決定]を押す

状態設定画面★が表示されます。

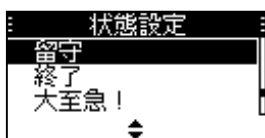
- ★下の表示例は、初期設定の場合で、販売店での保守設定により異なることがあります。



4 通知する状態を選択する

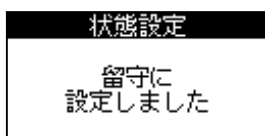
[▲]/[▼]を押し、通知させたい情報を選択します。

(選択例：留守)



5 [メニュー/決定]を押す

「ピピピ」と鳴り、設定が完了したことを知らせます。

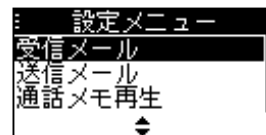


■ 状態の設定を解除するには

1 設定メニューを呼び出す

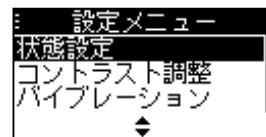
待ち受け画面の状態です[メニュー/決定]を押します。

- 設定メニュー画面が表示されます。



2 「状態設定」を選択する

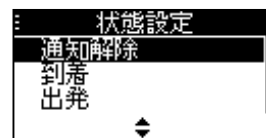
[▲]/[▼]を押し、「状態設定」を選択します。



3 [メニュー/決定]を押す

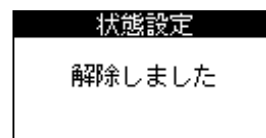
状態設定画面が表示されます。

- 「通知解除」が選択されています。



4 [メニュー/決定]を押す

「ピピピ」と鳴り、設定が完了したことを知らせます。

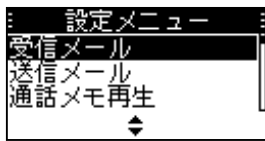


バイブレーションをONにする

着信をバイブレーション(振動)でお知らせする設定です。
※このメニューは、運用パラメータ(P.71)で機能を有効に設定した場合に表示されます。
※設定が有効なモードは「通話する(着信)」(P.31)をご覧ください。

1 設定メニューを呼び出す

待ち受け画面の状態で[メニュー/決定]を押します。
● 設定メニュー画面が表示されます。



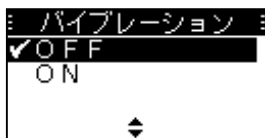
2 「バイブレーション」を選択する

[▲]/[▼]を押し、「バイブレーション」を選択します。



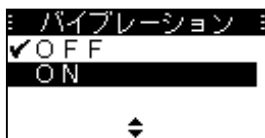
3 [メニュー/決定]を押す

バイブレーション画面が表示されます。



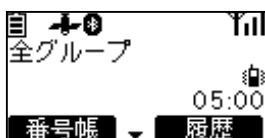
4 「ON」を選択する

[▲]/[▼]を押して、「ON」を選択します。



5 [メニュー/決定]を押す

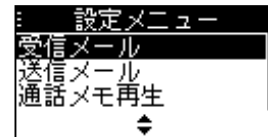
バイブレーションを有効にして待ち受け画面に戻り、画面右端に「」表示が点灯します。



■ バイブレーションをOFFにするには

1 設定メニューを呼び出す

待ち受け画面の状態で[メニュー/決定]を押します。
● 設定メニュー画面が表示されます。



2 「バイブレーション」を選択する

[▲]/[▼]を押し、「バイブレーション」を選択します。



3 [メニュー/決定]を押す

バイブレーション画面が表示されます。



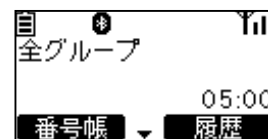
4 「OFF」を選択する

[▲]/[▼]を押して、「OFF」を選択します。



5 [メニュー/決定]を押す

バイブレーションを無効にして待ち受け画面に戻り、画面右端の「」表示が消灯します。



Bluetoothを設定する

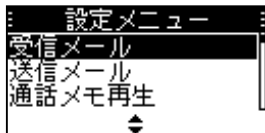
Bluetooth機器の探索、接続、確認を行います。

※このメニューは、運用パラメータ(P.71)で機能を有効に設定した場合に表示されます。

1 設定メニューを呼び出す

待ち受け画面の状態で[メニュー/決定]を押します。

- 設定メニュー画面が表示されます。



2 「Bluetooth」を選択する

[▲]/[▼]を押し、「Bluetooth」を選択します。



3 [メニュー/決定]を押す

Bluetooth画面が表示されます。



【機器の探索をするには】

「機器探索」を選択します。

手順4へ進みます。

【接続機器の確認をするには】

手順7へ進みます。

4 [メニュー/決定]を押す

下図の表示に切り替わり、機器の探索を行います。

機器が見つかると、一覧が表示されます。

※機器探索中に、[右ガイド] (中止)を押すと、機器探索を中止します。



5 接続する機器を選択する

[▲]/[▼]を押して、接続する機器を選択します。



6 [メニュー/決定]を押す

機器の接続(ペアリング)を開始し、接続が完了すると、手順3に戻ります。



7 「接続機器一覧」を選択する

[▲]/[▼]を押し、「接続機器一覧」を選択します。



8 [メニュー/決定]を押す

下図の表示に切り替わります。

[▲]/[▼]を押して、接続している機器(最大3件)を確認できます。

※[左ガイド] (クリア)を押すと、選択している接続機器(切断済み)を削除して、手順7の表示に戻ります。



警告機能について

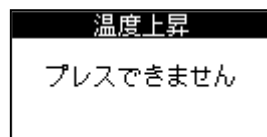
本製品の温度が規定温度を超えると、温度警告「温度」が表示されて温度上昇警告音（「ピー」が1回）が鳴ります。送受信ができなくなります。

また、送信中に規定温度を超えた場合は、警告画面が表示されて送信を中断します。

本製品の温度が規定温度を下回ると、温度警告「温度」は消灯して送受信できるようになります。

※「温度」が表示された場合は、本製品の電源を切ってください。

また、「温度」表示が消灯すると送受信できるようになりますが、本製品がある程度冷えてから、再運用されることをおすすめします。



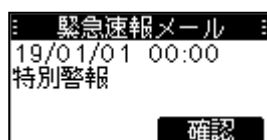
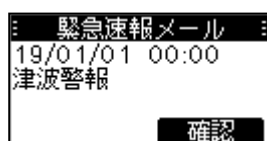
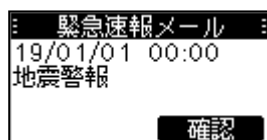
（警告画面）

緊急速報メール

気象庁が配信する「緊急地震速報」「津波警報」「気象等に関する特別警報」などを受信することができます。

■ 緊急速報メールを受信したとき

画面表示と専用着信音でお知らせします。



※バイブレーションをONに設定しているときは、バイブレーションも動作します。

1 [メニュー/決定]を押す

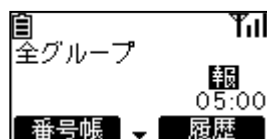
緊急速報メールの受信内容が表示されます。

- 緊急速報メールの内容につづきがある場合は、[▼]を押すと、つづきの内容が表示されます。

※[右ガイド]（確認）を押すと専用着信音が停止し、待ち受け画面に戻ります。



緊急速報メールを受信したあと[決定]（確認）を押さずに一定時間経過すると待ち受け画面に戻り、専用着信音も停止します。このとき、待ち受け画面には「報」のアイコンが表示されます。



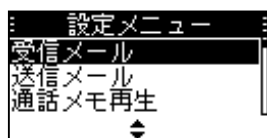
緊急速報メールの受信履歴

受信した緊急速報メールの履歴、および内容を確認することができます。

1 設定メニューを呼び出す

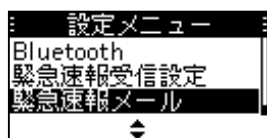
待ち受け画面の状態で[メニュー/決定]を押します。

- 設定メニュー画面が表示されます。



2 「緊急速報メール」を選択する

[▲]/[▼]を押し、「緊急速報メール」を選択します。



3 [メニュー/決定]を押す

緊急速報メール画面が表示されます。



※緊急速報メール履歴(最大10件の受信した日時、およびその日時の前にメールが未読メールか既読メールかを示すマーク)が表示されます。

☐：未読メール

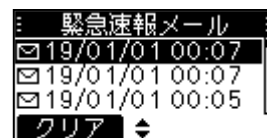
☐：既読メール

※1件も受信履歴が無いときは、「履歴がありません」が表示されます。

4 表示させたい受信日時を選択する

[▲]/[▼]を押し、メール内容を表示させたい受信日時を選択します。

※[左ガイド](クリア)を押すと、選択しているメールを消去します。



5 [メニュー/決定]を押す

緊急速報メールの受信内容が表示されます。

- 受信メールの内容につづきがある場合は、[▼]を押すと、つづきの内容が表示されます。

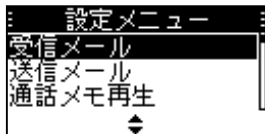


緊急速報メールの受信設定

1 設定メニューを呼び出す

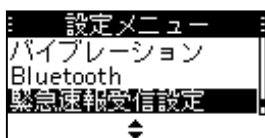
待ち受け画面の状態で[メニュー/決定]を押します。

- 設定メニュー画面が表示されます。



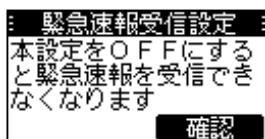
2 「緊急速報受信設定」を選択する

[▲]/[▼]を押し、「緊急速報受信設定」を選択します。



3 [メニュー/決定]を押す

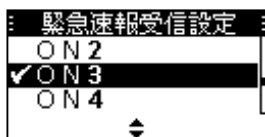
警告メッセージが表示されますので、[右ガイド] (確認) を押してメッセージを確認します。



4 [メニュー/決定]を押す

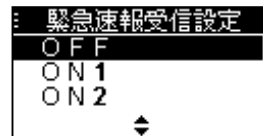
緊急速報受信設定画面が表示されます。

※ ONの数字は専用着信音の音量をあらわします。
(最大5～最小1)



5 設定を選択する

[▲]/[▼]を押し、緊急速報メールの受信設定を選択します。



6 [メニュー/決定]を押す

「ピピピ」と鳴り、設定が完了したことを知らせて、待ち受け画面に戻ります。

緊急速報メールの注意事項

■ 緊急速報メール受信時の音量について

◆ 外部マイクやイヤホンを接続していないとき

緊急速報メールの専用着信音は、受信したときの音量設定に関係なく、緊急速報受信設定で選択した音量で鳴ります。専用着信音が鳴っている間は、電源/音量ツマミを操作しても音量は変わりません。鳴り終わったあとに電源/音量ツマミの位置が音量設定に反映されますので、気を付けてください。

◆ 外部マイクやイヤホンを接続しているとき

緊急速報メールの専用着信音は、受信したときの音量設定のままで鳴ります。専用着信音が鳴っている間は、電源/音量ツマミを操作しても音量は変わりません。鳴り終わったあとに電源/音量ツマミの位置が音量設定に反映されますので、気を付けてください。

◆ Bluetooth機器を接続しているとき

緊急速報メールの専用着信音は、受信したときの音量設定のまま鳴動します。専用着信音が鳴っている間もBluetoothマイク(SK-M03)を操作して音量調整できます。

■ 緊急速報メールの受信について

◎圏外にいた場合、緊急速報メールを受信できません。

◎通話中に緊急速報メールを受信したときは、強制的に通話が終了となり、緊急速報メールの受信画面が表示され、専用着信音が鳴ります。

◎セレコール受信中に緊急速報メールを受信したときは、セレコール音が中断して、緊急速報メールの受信画面が表示され、専用着信音が鳴ります。セレコール音は緊急速報メールの専用着信音が停止したあとに再開されます。

◎緊急通報中、または緊急モニター中に緊急速報メールを受信しても画面表示は変化せず、専用着信音も鳴りません。このとき、緊急速報メールは受信履歴に保存され、待ち受け画面に「」のアイコンが表示されます。

◎緊急速報メールを配信する団体や配信する内容により、スマートフォンで緊急速報メールを受信していても、本製品では受信できない場合があります。

◎本製品の電源を入れた直後などに緊急速報メールを受信した場合は、受信日時が正しく表示されない場合があります。

その他の機能について

■ GPS位置情報

内蔵されているGPSユニットから取得した位置情報を定期的に送信します。

また、[プレストーク]を押したときにも送信します。

設定によっては、送信する位置情報の取得を制限(無効化)します。

※GPSは人工衛星からの電波を利用しているため、屋外など、本製品の上方が開けた場所でご使用いただくと、測位しやすくなります

■ 無通信時間制限

「通話状態」のとき、送受しない時間を制限します。

「無線通信時間制限」の時間は、電源を入れたときにサーバーから通知されます。

「送信状態」、および「話中状態」から「通話状態」に切り替わったときにカウントダウンを開始します。

制限時間になった場合、「プー」と終話音が鳴るとともに、サーバーからの切断通知によって待ち受け画面に戻ります。

■ 緊急モニター

緊急モニター要求を受信すると、[プレストーク]の操作に関係なく、マイクから入った周囲の音が送信されます。

別売品(スピーカーマイク/イヤホンマイク/Bluetoothイヤホンマイク)を使用すると、別売品の[プレストーク]を押している間は、別売品のマイクと本体のマイクが同時に有効になります。

緊急モニター要求を受信した場合は、待ち受け画面のまま「発呼」→「送信」します。

緊急モニター停止要求まで、緊急モニター状態を継続します。

■ デュアルSIM動作について

以下の条件で、docomo回線とau回線が自動的に切り替わります。

◎一定時間サーバーからPing応答がないとき

◎au回線使用時、運用パラメータで設定した時間を経過したとき

別売品とその使いかた

■別売品についてのご注意

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じる無線機の破損、故障、または動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

■別売品について

★1：IP67の防塵/防水性能があります。

★2：IP54の防塵/防水性能があります。

★3：バッテリーパックを充電する場合は、本体に装着した状態で行ってください。

上記、防塵/防水性能は、「IP表記」(P.3)をご覧ください。

バッテリー関係

SK-P62★ ¹	：Li-ionバッテリーパック(M) (Min：1910mAh、Typ：2010mAh)
SK-P63★ ¹	：Li-ionバッテリーパック(L) (Min：3050mAh、Typ：3150mAh)
SK-P64★ ²	：乾電池ケース (単3形アルカリ乾電池×5本)

充電する

SK-P65	：急速充電器(1台用)
SK-P66	：急速充電器(最大6台まで連結可能)
SK-P67	：ACアダプター (SK-P65、SK-P66単体充電用の電源)
SK-P68	：ACアダプター (SK-P66連結充電用の電源)
SK-P69A★ ³	：USB用ACアダプター ※急速充電器のACアダプターとしては使用できません。
SK-P69C★ ³	：充電用USBケーブル

その他

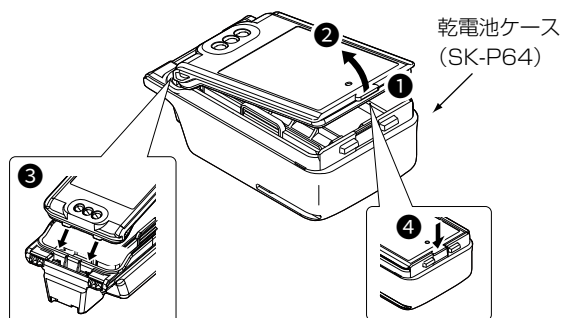
SK-T61	：ベルトクリップ
SK-T62	：キャリングケース(SK-P62用)
SK-T63	：キャリングケース(SK-P63用)
SK-T64	：ショルダーストラップ ※SK-T62、SK-T63と組み合わせてお使いいただけます。

マイクロホン/ヘッドセット関係

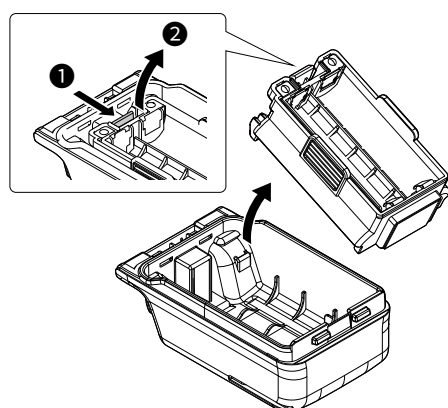
SK-M01	：小型スピーカーマイクロホン
SK-M02	：イヤホンマイクロホン
SK-M03	：Bluetoothヘッドセット
SK-M04★ ¹	：防水スピーカーマイクロホン
SK-E01	：スピーカーマイク用イヤホン
SK-E02	：スピーカーマイク用イヤホン
SK-E03	：ネクタイピンマイク用イヤホン

■ 乾電池ケース(SK-P64)について

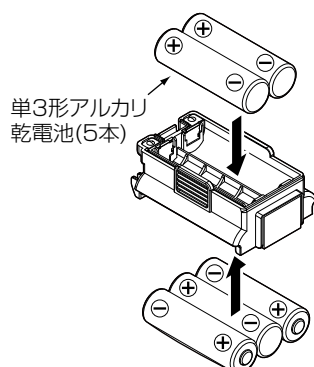
1. 乾電池ケースのフタを開けるときは、指を①の部分にかけて、②の方向に引き上げます。
フタを閉じるときは、③→④の順番で閉じてください。
このとき、ケース外部に防水用パッキンがはみ出さないように注意してください。



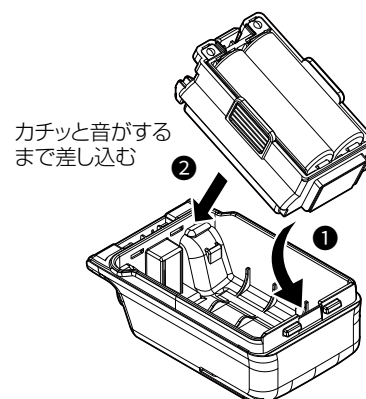
2. ①の部分を指で押しながら、②の方向に引き上げて取り出します。



3. 単3形アルカリ乾電池を5本入れます。
※+(プラス側)と-(マイナス側)を間違えないように入れてください。



4. ①の方向から先に入れ、「カチッ」と音がするまで②の方向へ差し込みます。



◇ 乾電池ケースを正しくご使用いただくために

△危険

乾電池ケース(SK-P64)は、単3形アルカリ乾電池専用です。
マンガン乾電池や単3形の充電式電池は使用しないでください。
破裂、発火や火災、発熱、液もれ、感電、やけどの原因になります。

△注意

乾電池ケースを長期間使用しないときは、乾電池ケースからアルカリ乾電池を取りはずして保管してください。

- ◎乾電池ケースの電圧が本製品の動作範囲以下になると電池が切れます。
- ◎乾電池ケースの電池端子部にゴミやホコリが付着すると正常に使用できないことがあります。電池端子部は、定期的にやわらかい布などでふいてください。
- ◎アルカリ乾電池に記載されている注意事項も併せてお読みいただき、正しくご使用ください。
- ◎使用時間の目安は、下の表をご覧ください。
※使用条件やアルカリ乾電池の種類(製造元など)により、使用時間が大きく異なることがあります。
また、アルカリ乾電池の特性により、低温では使用時間が短くなります。

運用時間	LTE	約7時間
	条件：送信30秒、受信30秒、待ち受け240秒の繰り返し	

■急速充電器(連結タイプ)(SK-P66)で充電するには

バッテリーパックを単体、または無線機に装着した状態で充電できます。

※別売品の連結用ACアダプター(SK-P68)を使用すると、最大6台まで連結して同時に充電できます。(P.60)

※SK-P66で充電する場合は、無線機本体のUSBコネクターには接続しないでください。

⚠危険

当社純正バッテリーパック(SK-P62/SK-P63)以外は、絶対に充電しないでください。

◎充電中は、充電ランプが橙色に点灯します。

充電が完了すると、充電ランプが緑色に点灯します。

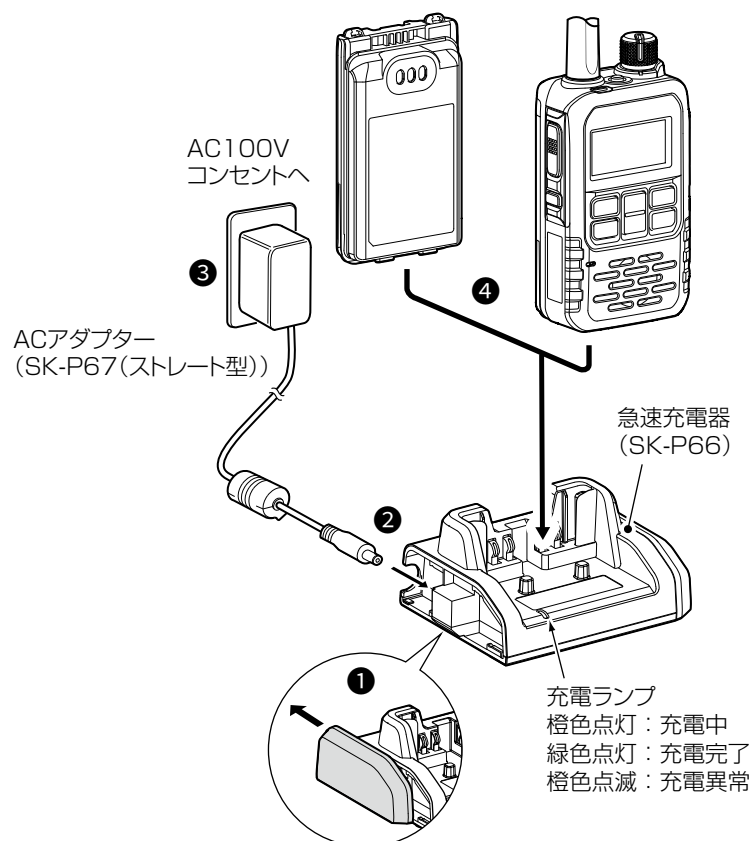
※充電異常時は、充電ランプが橙色に点滅します。下図の接続を確認し、充電しなおしてください。

◎無線機の電源操作をするときは、充電器から取りはずして操作してください。

◎充電が完了した状態で放置していても、バッテリーパックの電圧が低下すると、自動的に再充電を開始します。

※使用温度範囲(5℃～40℃)外の環境や劣化が進んだバッテリーパックを充電した場合、充電完了後すぐに充電を再開する場合がありますが、充電器の故障ではありません。

※充電後や充電しないときは、ACコンセントからACアダプターを抜いてください。



別売品とその使いかた

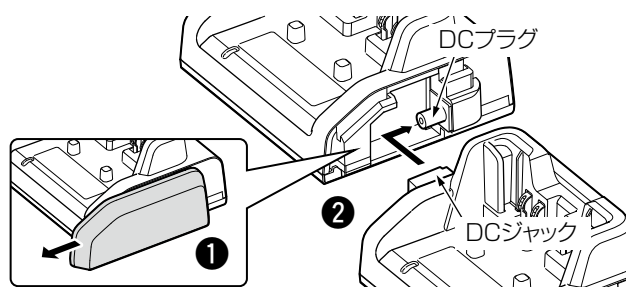
■急速充電器(連結タイプ)(SK-P66)で充電するには

◇SK-P66の連結充電について

充電器を最大6台まで連結して、同時に充電できます。

[連結のしかた]

1. 充電器右側面のカバーを取りはずします。(①)
2. 右側面にあるDCプラグと、もう1台の充電器(左側面)にあるDCジャックを「カチッ」と音がするまで差し込みます。(②)



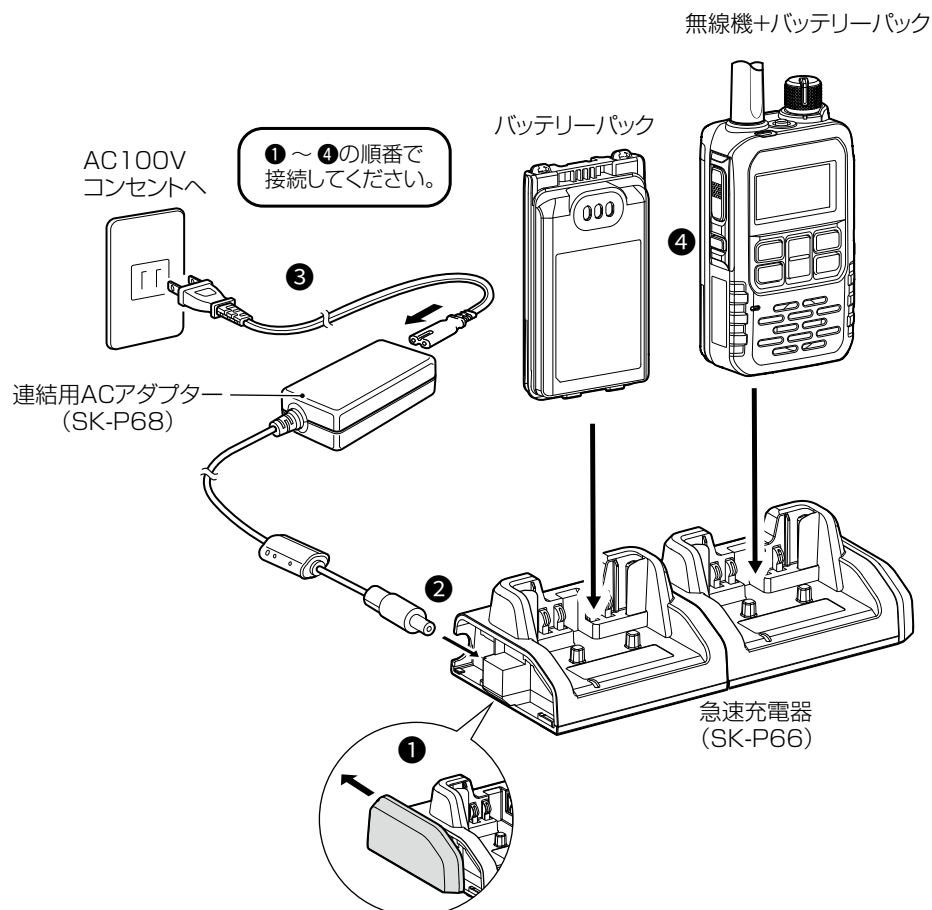
△警告

下記の事項を守らないと、火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。

◎SK-P66を7台以上連結して充電しないでください。

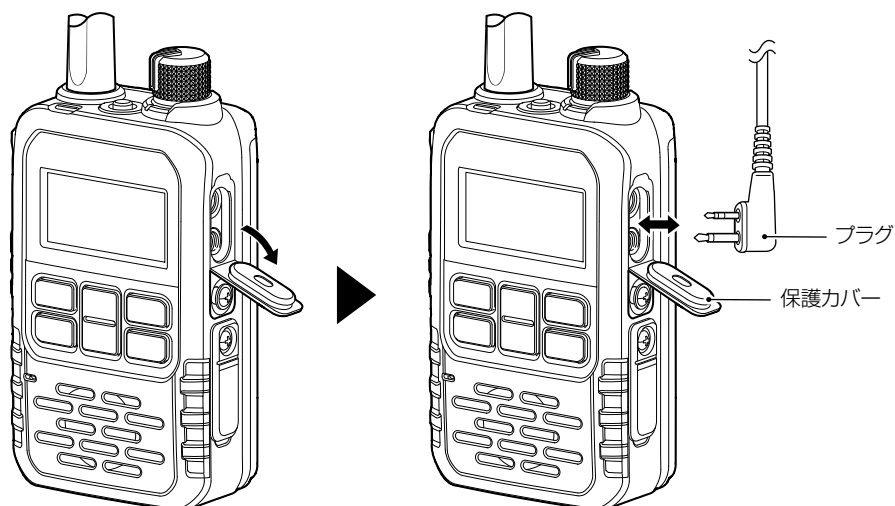
◎SK-P66を複数台連結する場合、電源は必ず連結用ACアダプター(SK-P68)をご使用ください。

例) 2台連結した場合

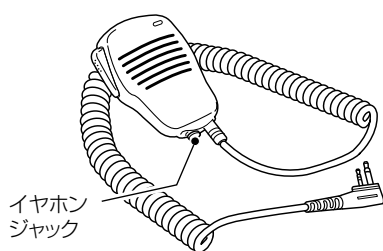


■ スピーカーマイク(SK-M01)/ネクタイピンマイク(SK-M02)/ 防水スピーカーマイク(SK-M04)の接続について

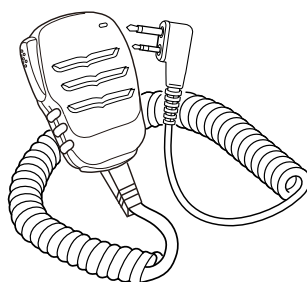
- ◎接続ケーブルを抜き差しする前に、本製品の電源を切ってください。
- ◎プラグ本体を持ってまっすぐに抜き差ししてください。
- ◎防塵/防水対応により、差し込み部分がかたくなっていますので、プラグを接続するときは、奥まで確実に差し込んでください。
- ◎防水性能の維持と端子保護のため、別売品を接続しないときは、保護カバーを閉じてご使用ください。
保護カバーが破損した場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。



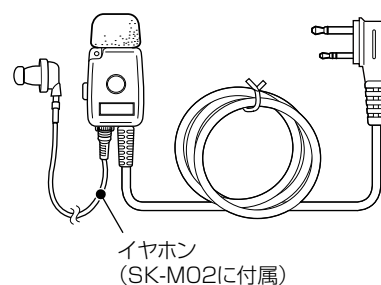
SK-M01



SK-M04

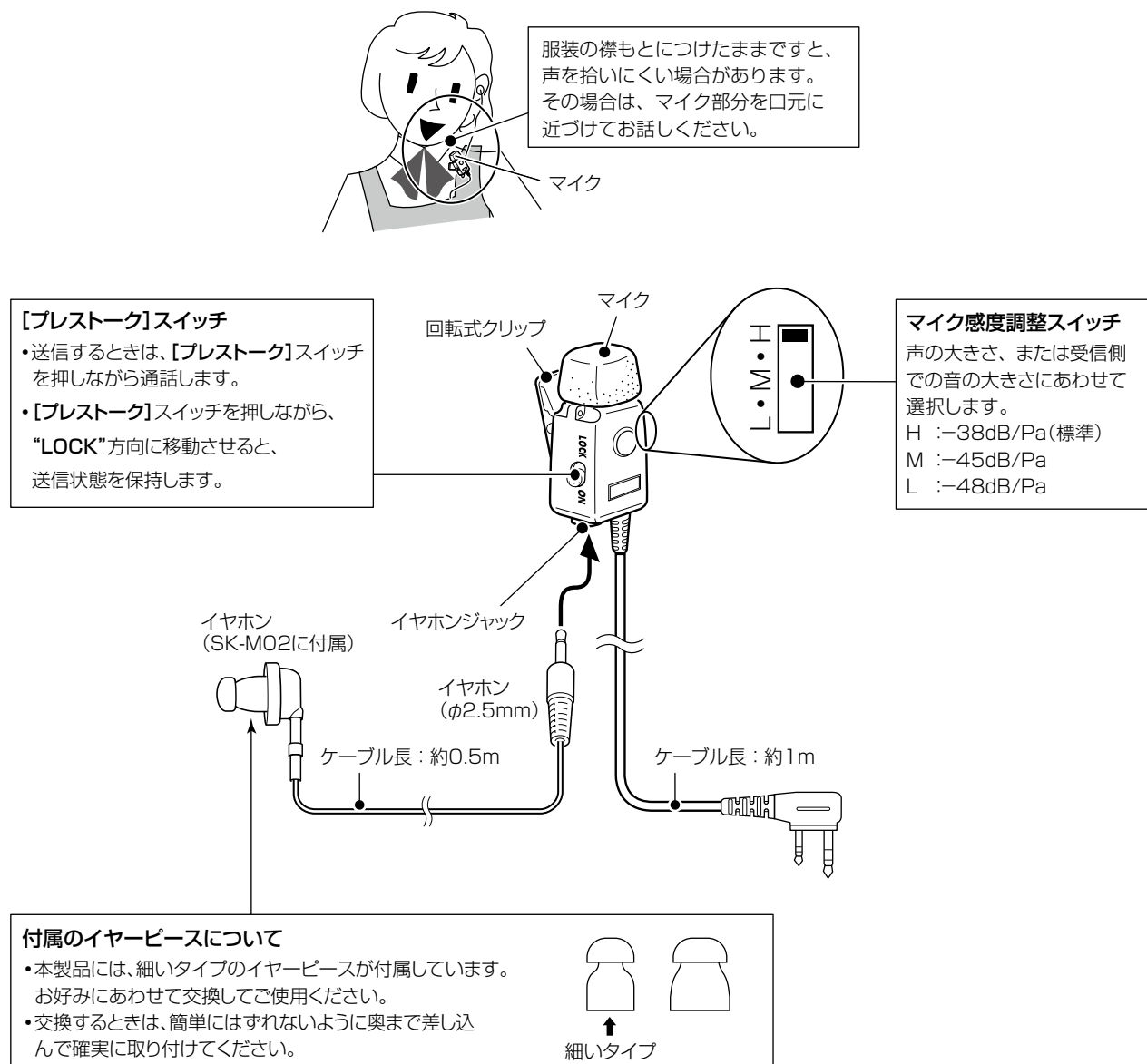


SK-M02



※SK-M02に付属のイヤホンは無線機本体に直接接続して使用できません。

■ ネクタイピンマイク(SK-M02)の使いかた



ご参考

ネクタイピンマイクがSK-6000に接続された場合は、無線機本体の【プレストーク】、およびマイクが無効になります。

別売品とその使いかた

Bluetoothマイク(SK-M03)の使いかた

SK-M03をお買い上げいただいたときや、2ヵ月以上使用しなかったときは、充電してからご使用ください。
また、使用中に、LEDランプが赤色で3秒に1回点滅する場合も、充電してください。

1. SK-M03の電源が切れているか確認します。
- 電源が入っている場合は、[電源]ボタンを長く(約3秒)押し、電源を切ります。
2. 充電用USBポートのゴムカバーを開け、付属の充電用USBケーブルを市販のUSBポート付きACアダプターやパソコンなどのUSBポートに接続します。
- 充電中は、LEDランプが赤色に点灯します。
 - 充電が完了すると、LEDランプが消灯します。

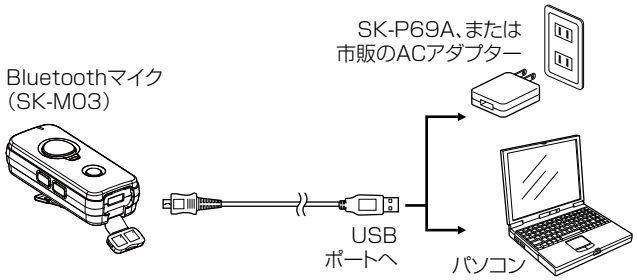
△充電時のご注意

充電時間は約3時間です。

充電時間が経過してもLEDランプが消灯しない場合は、充電用USBケーブルを取りはずし、充電を中止してください。

指定時間以上の充電は、寿命が低下したり、保護装置が動作して充電できなくなったり、保護装置が破損したりして、破裂、発煙、発火や火災、液もれ、やけどの原因になります。

また、充電中は、本製品を使用できません。



ご参考に

◎Bluetoothが動作せず操作を受け付けられない場合など、電源を強制終了するときは[リセット]ボタンを使用します。

◎本製品にBluetooth接続した場合、SK-M03の[早送り]ボタン、[再生]ボタン、[巻き戻し]ボタンは使用できません。

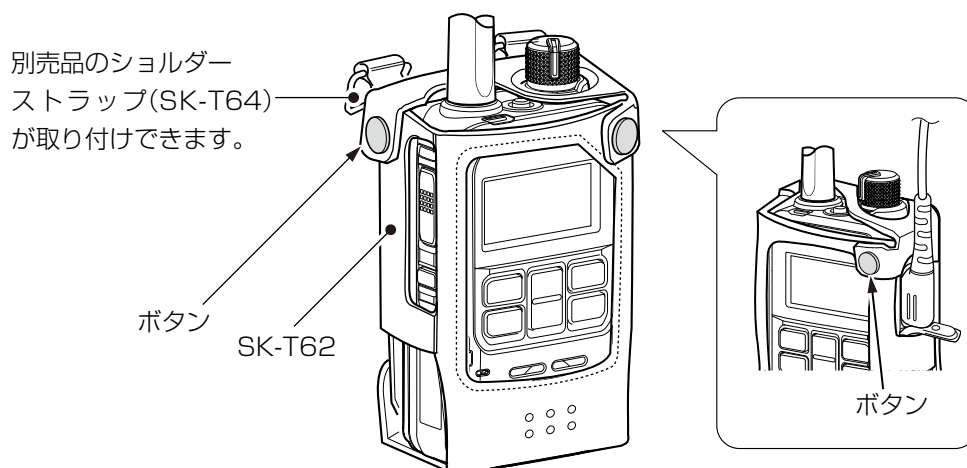
機能	操作	確認音	Bluetooth接続ランプ
Bluetooth機能ON	[電源]ボタンを約3秒押す	メロディ音(上がる)	青色で点滅する
Bluetooth機能OFF	[電源]ボタンを約3秒押す	メロディ音(下がる)	消灯する
ペアリング	電源OFF時、[電源]ボタンを約6秒押す	接続待機中：ピパ 接続完了： ピロッ	赤色と青色で交互に点滅 3秒間隔で青色2回点滅
送信する★ ¹	[プレストーク]ボタンを押す	ピッ(初期値)	3秒間隔で赤色1回点滅→青色2回点滅
音量を上げる★ ¹	[VOL](+)ボタンを押す	ピー(高音)※最大音量時	—
音量を下げる★ ¹	[VOL](-)ボタンを押す	ブー(低音)※最小音量時	—

※初回起動時(ペアリングリストがないとき)は、電源ON時、常にペアリング状態で起動します。
確認音も「ピパ」だけです。

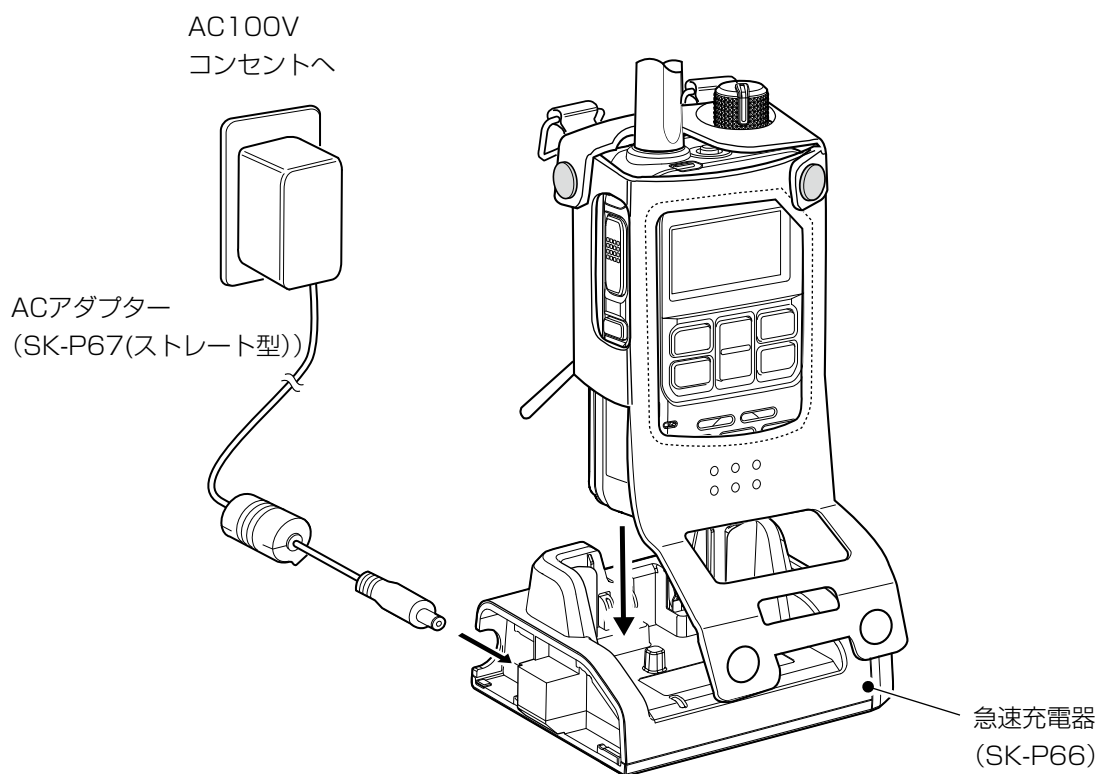
★¹ Bluetooth接続時に使用できる機能です。

■ キャリングケース(SK-T62)について

無線機本体にバッテリーパック(SK-P62)を装着しているときに使用できるキャリングケースです。



キャリングケース装着時、急速充電器で充電するときは、キャリングケースの背面にあるボタンをはずし、下図のように取り付けてください。

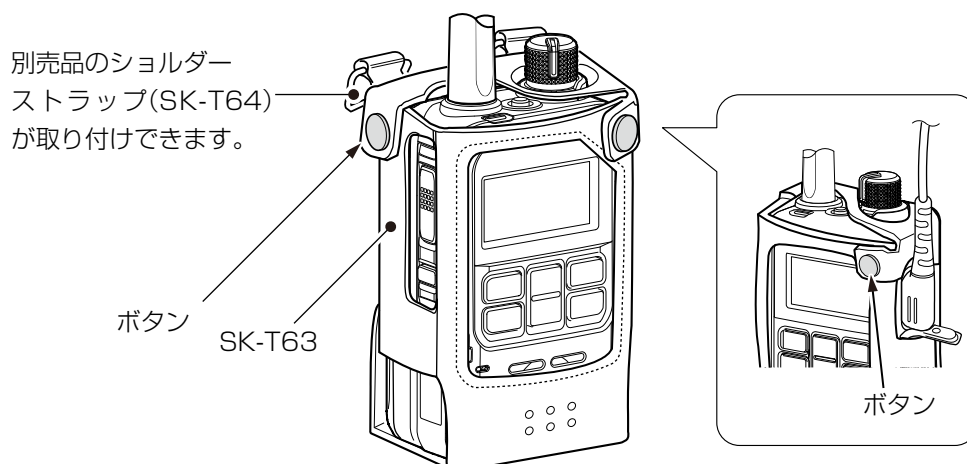


△注意

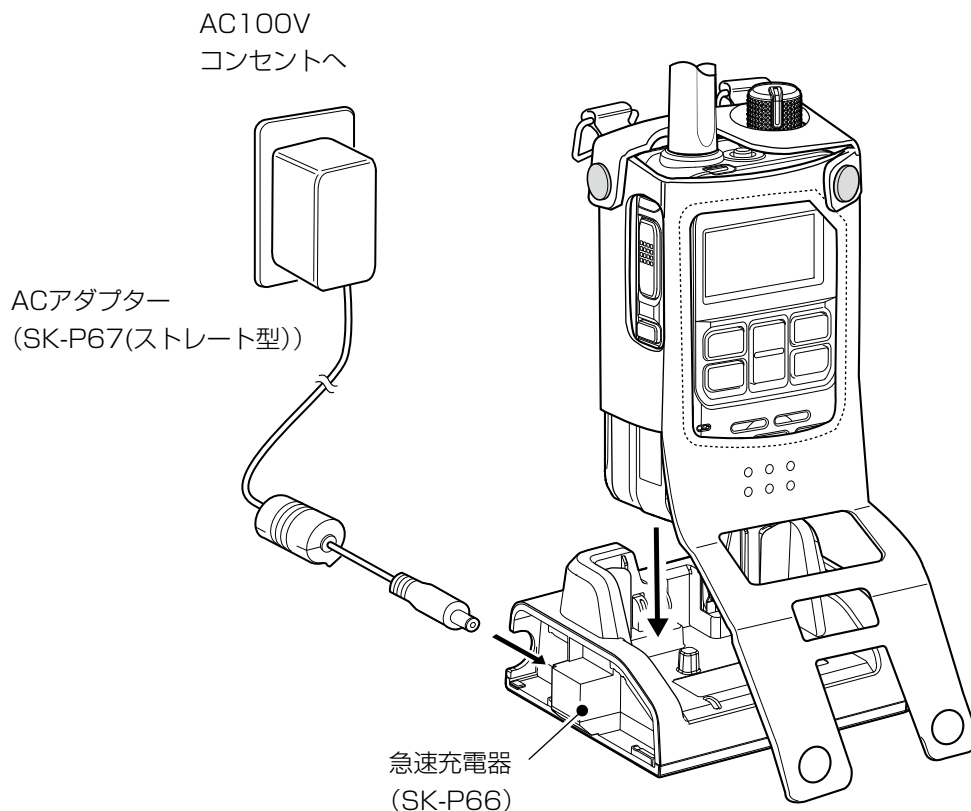
キャリングケースの背面ボタンを外した状態では、ケース下部が本体を押し上げるため、奥まで確実に挿入しないと充電端子が接触せず、充電できない場合があります。奥まで確実に挿入してください。

■ キャリングケース(SK-T63)について

無線機本体にバッテリーパック(SK-P63)を装着しているときに使用できるキャリングケースです。



キャリングケース装着時、急速充電器で充電するときは、キャリングケースの背面にあるボタンをはずし、下図のように取り付けてください。



△注意

キャリングケースの背面ボタンを外した状態では、ケース下部が本体を押し上げるため、奥まで確実に挿入しないと充電端子が接触せず、充電できない場合があります。奥まで確実に挿入してください。

ケタ数/件数一覧

設定項目	登録範囲(最大)	登録件数(最大)
個別番号	4ケタ(1～9999)	—
グループ番号	3ケタ(1～999)	—
相手局名称	全角5文字	500件
よみがな	記号、英数字、半角カナ4文字	
再発信可能な履歴		発信履歴10件
		着信履歴10件
メール定型文	全角12文字	30件
受信メール履歴	全角96文字	10件
送信メール履歴	全角24文字	10件
伝言メモ		6件(通話メモ設定時は5件)
Bluetooth機器	半角16文字(名称)	3件
ユーザ名称	全角5文字	24件
状態通知内容	全角5文字	20件
緊急速報メール履歴	全角500文字	10件

※各種登録範囲、登録件数は販売店の保守設定により異なります。

ソフトウェアエアダウンロードについて

ソフトウェアエアダウンロード中(クラウド(サーバー)上に保存されている本製品の最新のソフトウェアが更新されたとき)は、「FIRM DL」が表示されます。

ソフトウェアエアダウンロードが完了すると、「FIRM OK」が表示されます。

※ソフトウェアエアダウンロード中に電源を切った場合は、次回起動時に最初からソフトウェアエアダウンロードを再開します。

※ソフトウェアエアダウンロード中に異常を検出したときは、「FIRM ER」が表示されます。
「FIRM ER」が表示されたときは、販売店にお問い合わせください。

最新のソフトウェアを有効にするには、電源を入れなおしてください。

自動でソフトウェアのアップデートがはじまり、完了後に本製品が起動します。

※アップデート中に電源を切った場合は、次回起動時に最初からアップデートを再開します。



メッセージ一覧

本製品で表示されるおもなメッセージは、以下のとおりです。

メッセージ内容	説明
設定取得中	運用パラメータエアダウンロード時
通話エリア圏外	LTE回線に未接続
○○○○○ 呼出あり	セレコール受信時
○○○○○ 呼出中	相手局表示時、セレコール、取消セレコール、メール、伝言メモ送信時
呼出中	相手局無表示時(「通話する(番号入力発信)」で全グループ、隣接通信、全グループ一斉を発呼したとき)
発呼失敗 相手局圏外	発呼時にサーバから応答がなかったときや、個別系発呼の相手局が圏外のとき
発呼失敗 相手局話中	個別系発呼の相手局が通話中のとき
発呼失敗 通信中	個別発呼の相手局通信中
発呼失敗	その他の発呼失敗時
○○○○○ 成功	セレコール、取消セレコール送信成功時
○○○○○ 取消対象がありません	取消セレコール送信失敗時
履歴がありません	発信、着信、受信メール、送信メールで履歴なし
○○履歴を 消去しました	発信/着信履歴全消去
○○○○○ メールを送信しました	メール送信成功時

メッセージ内容	説明
○○○○○ メールが一杯です	メール、伝言メモ送信失敗時
伝言メモ録音中 残○○秒	伝言メモ送信中、伝言メモ受信 中
受信メールを 1件消去しました	受信メール消去
送信メールを 1件消去しました	送信メール消去
伝言メモを 1件消去しました	伝言メモ消去
未確認メールのため 消去できません	メール、伝言メモ未確認消去時
伝言メモ再生中	伝言メモ再生中
録音を開始しました	通話メモ録音開始時
録音を停止しました	通話メモ録音停止時
通話メモがあります	通話メモ録音あり
通話メモがありません	通話メモ録音なし
再生中です	通話メモ再生中
○○○○○に 設定しました	状態設定時、ユーザ切替時
解除しました	状態解除時
設定を戻しました	待ち受け画面でキー長押し時

保守

■ 日常の保守

- ◎携帯電話通信サービスエリア内で、通話に支障がないか注意してください。
- ◎清掃するときは、洗剤や有機溶剤(シンナー、ベンジン、アルコールなど)を絶対に使用しないでください。
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。また、バッテリーパック(SK-P62/SK-P63)や乾電池ケース(SK-P64)を取りはずした状態では、乾いたやわらかい布でふいてください。
- ◎使用される前に、バッテリーパックや乾電池ケースがしっかりと装着されているか点検してください。
また、電池の容量が十分残っているか、表示部の残量表示を確認してください。
- ◎無線機本体、充電器、バッテリーパックの各端子(充電端子や電源端子)にゴミやホコリが付着すると、接触不良が原因で正常に動作しないことがあります。
各端子は、定期的に乾いたやわらかい布でふいてください。
- ◎毎日、決まった位置の相手と通話して、変化がないか確認してください。

■ 定期保守

年1回は、サービス担当会社で定期点検を受けるようにしてください。

故障と思われる前に

修理を依頼される前に、もう一度次のことを確認してください。
それでもなお異常がある場合には、お買い上げの販売店にご相談ください。

こんなときは	説明
電源が入らない	バッテリーパック、または乾電池ケースの端子が汚れている、あるいは糸クズなどが付着していませんか？
	バッテリーパック、または乾電池ケースの乾電池が消耗していませんか？
	乾電池ケースに入れた乾電池の極性を間違えていませんか？
	電源を切る前、「  温度」と表示されていませんか？
圏内にならない	ご利用の場所で電波を受信できる状況か、ご確認ください。 (サービス圏内であってもトンネル内やビルの谷間などでつながりにくいことがあります。)
音が聞こえない	本製品の音量を最小にしていますか？ ※キー操作や着信時の音も聞こえなくなります。
受信音声小さい	発信側で、マイクから口を遠くはなして使用していませんか？
受信音声割れる、またはひずむ	発信側で、マイクに口を近づけすぎて使用していませんか？
音が途切れる	電波が弱い地域や移動しているときは、音が途切れることがあります。
充電中に、充電器(SK-P65/SK-P66)のランプが橙色に点滅する	バッテリーパックは正しく装着されていますか？
	5℃～40℃以外の環境で充電していませんか？
	充電端子が汚れている、あるいは糸クズなどが付着していませんか？

【すぐに販売店に】

万一、煙が出る、異臭がする、異音がするなどの異常が発生した場合は、ただちに使用を中止して、その場を離れてください。安全が確認できた後に、お買い上げの販売店にご相談ください。

用語・機能説明一覧

無線機・無線局

移動局	移動中、または特定しない地点に停止中に運用する無線局
指令局	営業所などの固定された場所で運用し、通話の管理を行う無線局

通話モード

個別通話	1対1の通話
グループ通話	全体を特定の小グループに分けて行う通話
全グループ通話	同一ユーザーの無線局が通話
全グループ斉通話	同一ユーザー内のすべての通話を終了し、送信者が優先通話を行う全グループ通話
個別優先通話	同一ユーザー内で、通話中の無線局に対して、通話を強制終了させて、その無線局と優先して通話を行う個別通話
隣接通信通話	同一ユーザー内で、GPS位置情報、またはあらかじめ無線機に設定されている位置情報を元に、指定位置から指定範囲内にある無線局が通話

ユーザ

ユーザ	同一のユーザ名(番号)を持つユーザー
ユーザ切替	自局が所属しているユーザ名(番号)の切り替え

グループ

グループ	ユーザー内をいくつかに分けた小団体
着グループ番号	自局が所属するグループの番号

その他

個別番号	無線機ごとに割り当てられた特定の番号
セレコール	呼び出しがあったことを着信音(ピッポー)と表示で通知する機能
通話メモ	通話の途中で残しておきたい内容を録音し、必要に応じて再生する機能
伝言メモ	相手局の留守録にメッセージを録音する機能
選択呼出	特定の相手局のみを呼び出し、呼び出された相手局では着信音が鳴る機能
メール	運用パラメータであらかじめ登録された定型文を無線機間で送受信する機能
Bluetooth	デジタル機器用の近距離無線通信規格の一種で、本製品では指定のBluetoothイヤホンマイク(SK-M03)とワイヤレス接続する機能
バイブレーション	着信時に、無線機を振動させて知らせる機能
GPS	グローバルポジショニングシステムの略で、人工衛星を利用して自分が地球上のどこにいるのかを正確に割り出すシステム
運用パラメータ	運用するためのクラウド(サーバー)から送られる無線機の動作を設定する値
ソフトウェア	本製品の機能を提供するプログラム
ソフトウェアエアダウンロード (FIRM DL)	無線通信技術を利用したソフトウェア更新システム

仕様

■ SK-6000

外形寸法	56.0(W)×92.3(H)×31.0(D)mm(突起物を除く)
質量	約120g(アンテナとバッテリーを除く) 約220g(アンテナとバッテリー(SK-P62)を含む)
動作温度	−10℃～+60℃
電源電圧	定格(バッテリー端子)：7.4V(SK-P62/SK-P63)
消費電流	1.5A以下
音声入力レベル	9mVrms ±3dB (変調入力インピーダンス：2200Ω)
スピーカー定格出力	1.0W以上(内部SP 8Ω 5%歪時) 0.25W以上(外部SP 8Ω 5%歪時)

保証とアフターサービス

■保証書(別添付)

◎必ず、お買い上げの販売店からお買い上げの日、販売店名などの記入をお確かめの上、よくお読みのあと、保存してください。

保証期間は買い上げの日から3年間です。

◎異常にお気づきのときは、「故障と思われる前に」(P.70)にしたがってご確認のあと、直らないときは、必ず電源を切ってから買い上げの販売店にご連絡ください。

■保証期間中の修理

◎お買い上げの販売店にご連絡ください。

保証書の規定にしたがって修理させていただきます。

■保証期間後の修理

◎お買い上げの販売店にご相談ください。

保証書の規定にしたがって修理させていただきます。

■弊社製品のお問い合わせ先について

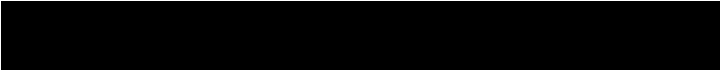
お買い上げいただきました弊社製品にご不明な点がございましたら、下記カスタマーサポート部にお問い合わせください。

販売元お問い合わせ先

トム通信工業株式会社 カスタマーサポート部

TEL 045-718-6750

ホームページ <https://smartw.co.jp/>



販売元お問い合わせ先
〒 223-0057 神奈川県横浜市港北区新羽町 1244 番地
トム通信工業株式会社
カスタマーサポート部 TEL 045 - 718 - 6750

●修理などアフターサービスについては、お買い上げの販売店
またはトム通信工業株式会社にご相談ください。

A7861-3J
202602